

富津市の高齢者・介護保険を巡る状況

(内容)

1. 人口の動向
2. 高齢者の状況
3. 高齢者世帯の状況
4. 認定者の状況
5. 認知症の状況
6. サービス受給／給付の状況
7. 給付費及び保険料の推移

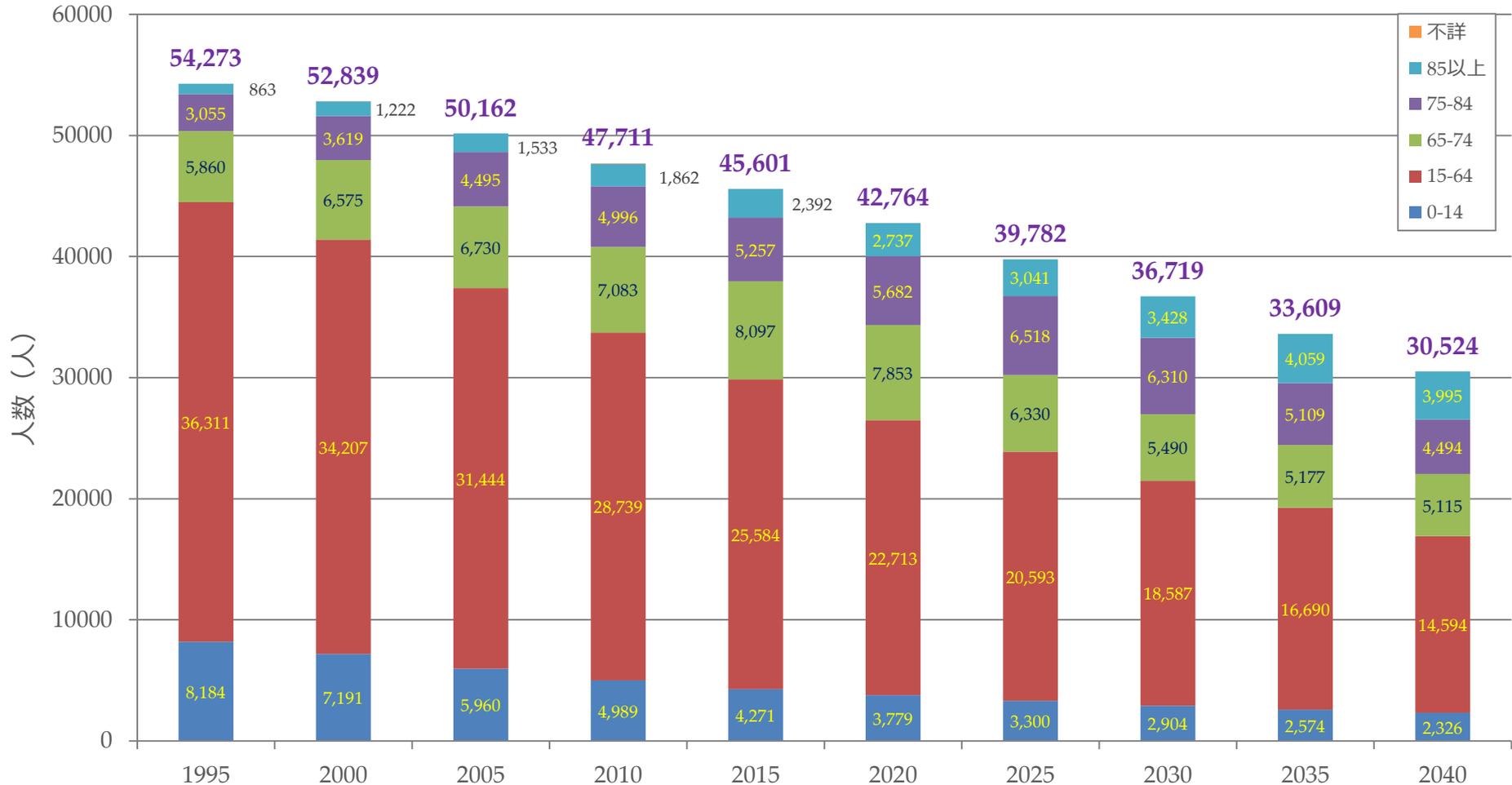
2020年7月27日

1. 人口の動向

人口の推移及び将来推計（1995～2040年間）

- 総人口、15-64歳人口ともに1995年をピークに年々減少している。
- 85歳以上人口は、1995年の863人が年々増加し、2035年に4,059人まで増加していく。

図表1-1. 人口の推移及び将来推計



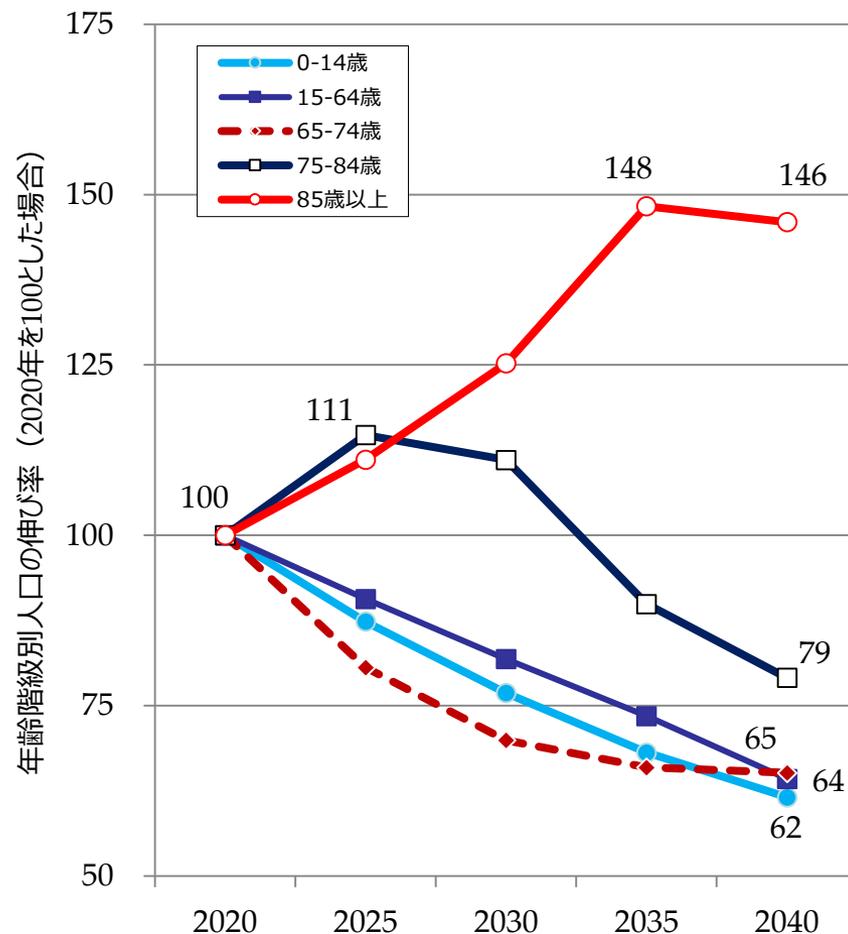
人口構造の変化（富津市）

- 2020→2040年間で、総人口は12,240人、15-64歳人口も8,119人減少していく。
- 一方、85歳以上は2,737→3,995人(1.5倍)に増加。2040年には総人口の13.1%を占める状況となる。

図表1-2. 2020→2040年の年齢階級別人口の変化

	2020		2040		変化量
	(人)	(%)	(人)	(%)	
総数	42,764	100.0	30,524	100.0	-12,240 (-28.6%)
0-14歳	3,779	8.8	2,326	7.6	-1,453 (-38.4%)
15-64歳	22,713	53.1	14,594	47.8	-8,119 (-35.7%)
65-74歳	7,853	18.4	5,115	16.8	-2,738 (-34.9%)
75-84歳	5,682	13.3	4,494	14.7	-1,188 (-20.9%)
85歳以上	2,737	6.4	3,995	13.1	1,258 (+46.0%)
再掲) 65歳以上	16,272	38.1	13,604	44.6	-2,668 (-16.4%)
再掲) 75歳以上	8,419	19.7	8,489	27.8	70 (+0.8%)

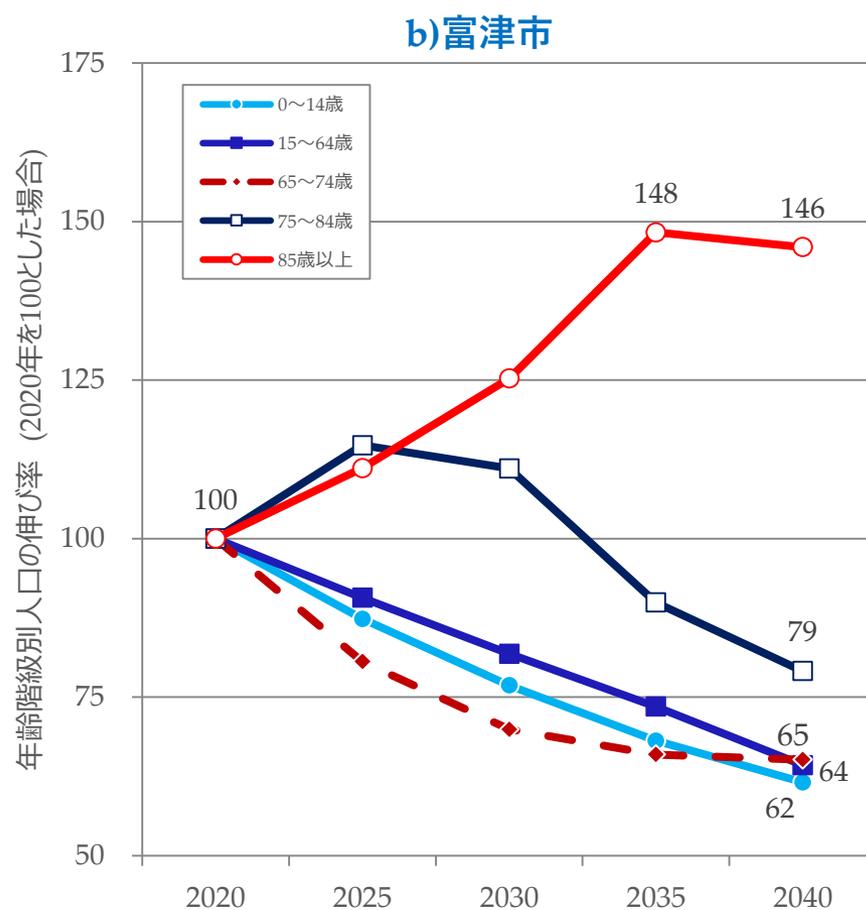
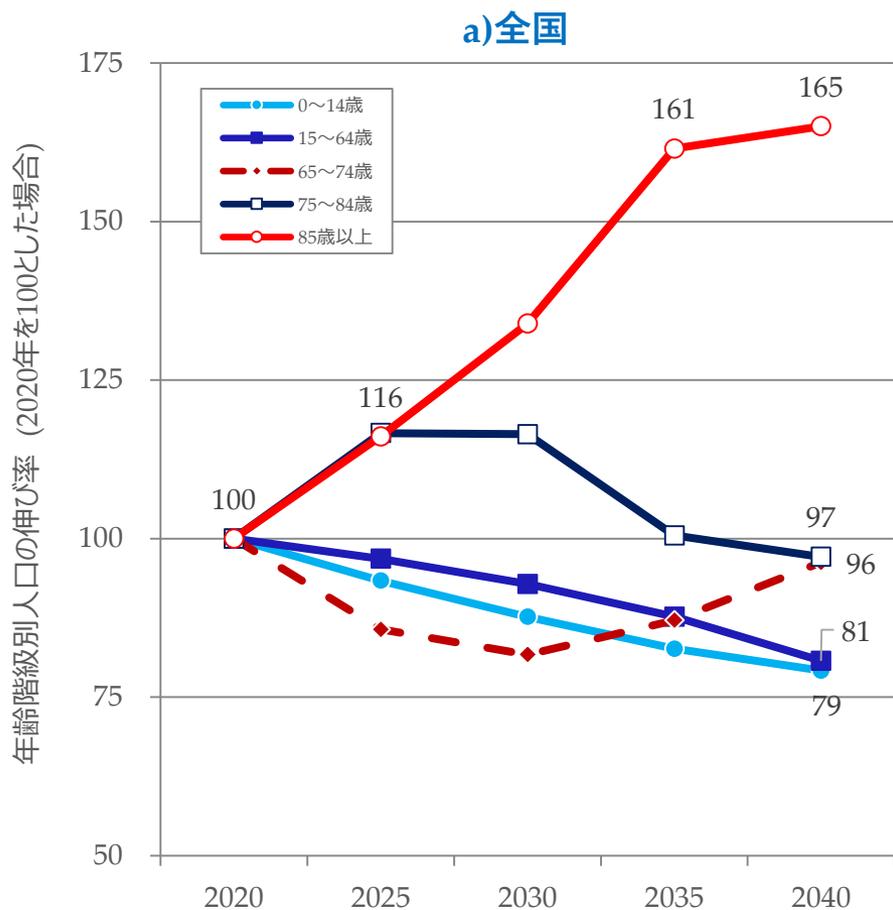
図表1-3. 年齢階級別人口の伸び率



人口構造の変化（全国との比較）

- 2020→2040年間で、15～64歳人口の減少率は「全国」19%に対して「富津市」36%、85歳以上の増加率は、「全国」65%に対し「富津市」46%と、富津市は全国に比べて、15～64歳人口の減少率は高く、85歳以上の増加率は低い状況であった。

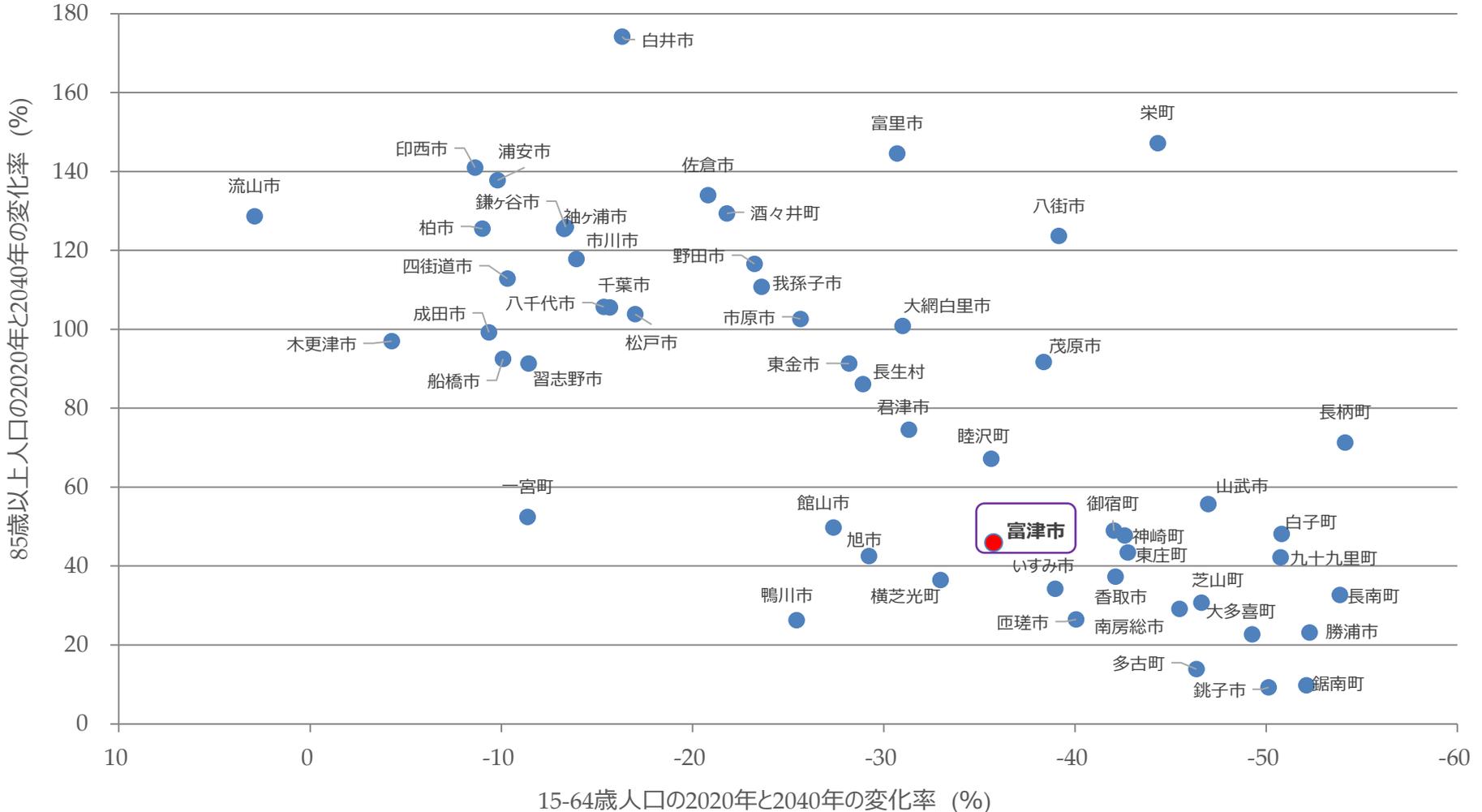
図表1-4. 年齢階級別人口の伸び率の全国との比較



15-64歳／85歳以上人口の変化の市町村比較（2020年と2040年の変化）

- 15-64歳人口の減少率は、「長柄町」が54.1%減と最も高く、富津市は35.7%減で高い方から22番目であった。
- 85歳以上人口の増加率は、「白井市」が174.2%と最も高く、富津市は46.0%で高い方から38番目であった。

図表1-5. 2020→2040年間の15-64歳人口と85歳以上人口の変化の市町村比較

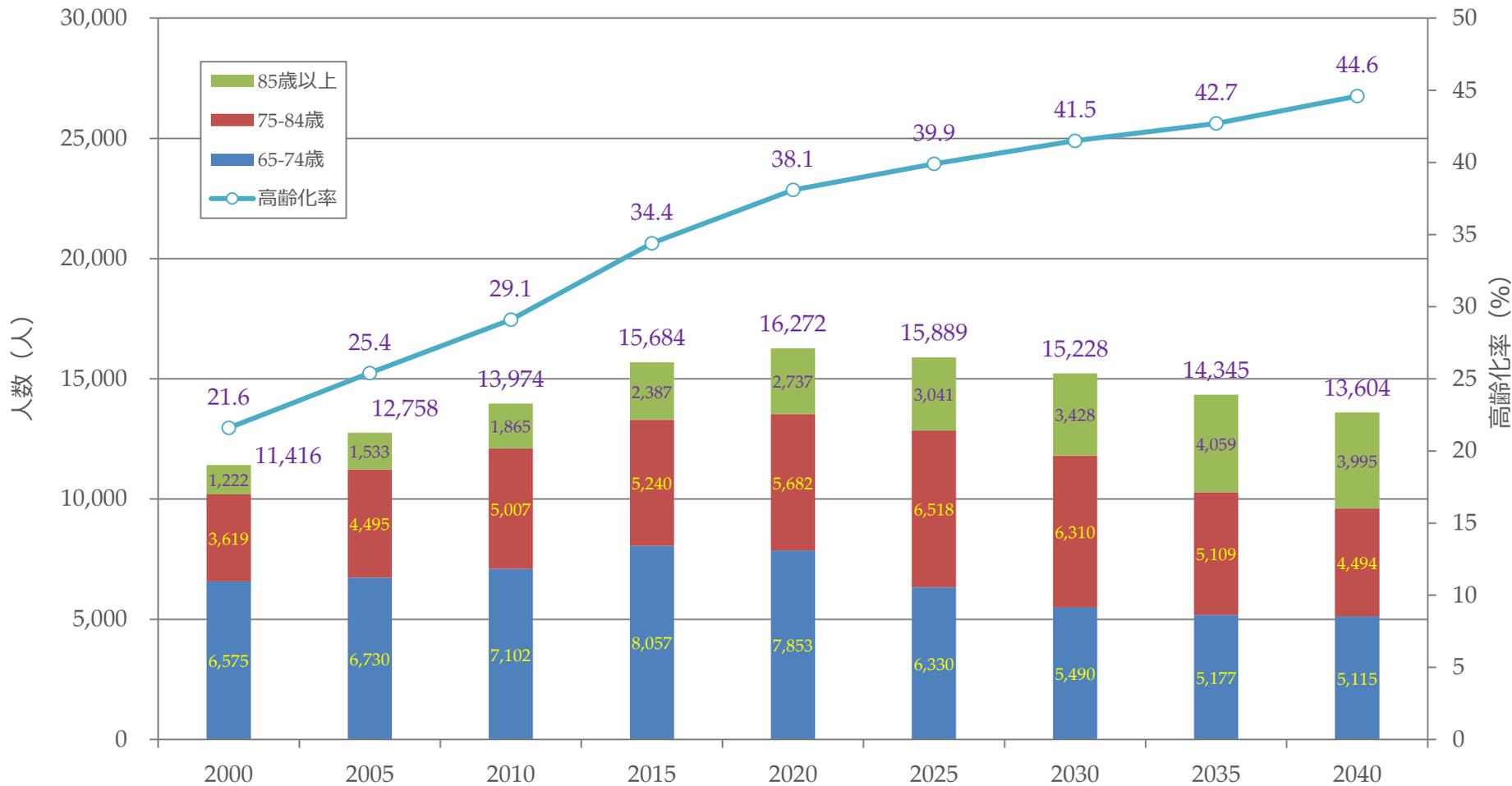


2. 高齢者の状況

年齢階級別に見た高齢者数及び高齢化率の推移

- 65歳以上の高齢者数は、2000→2020年間で増加した後、減少傾向となる。
- 2000年以降は総人口が減少する一方で、高齢者数は増加するため、高齢化率は上昇し、2000年の21.6%が2040年には44.6%まで増加していく。

図表2-1. 高齢者数及び高齢化率の推移

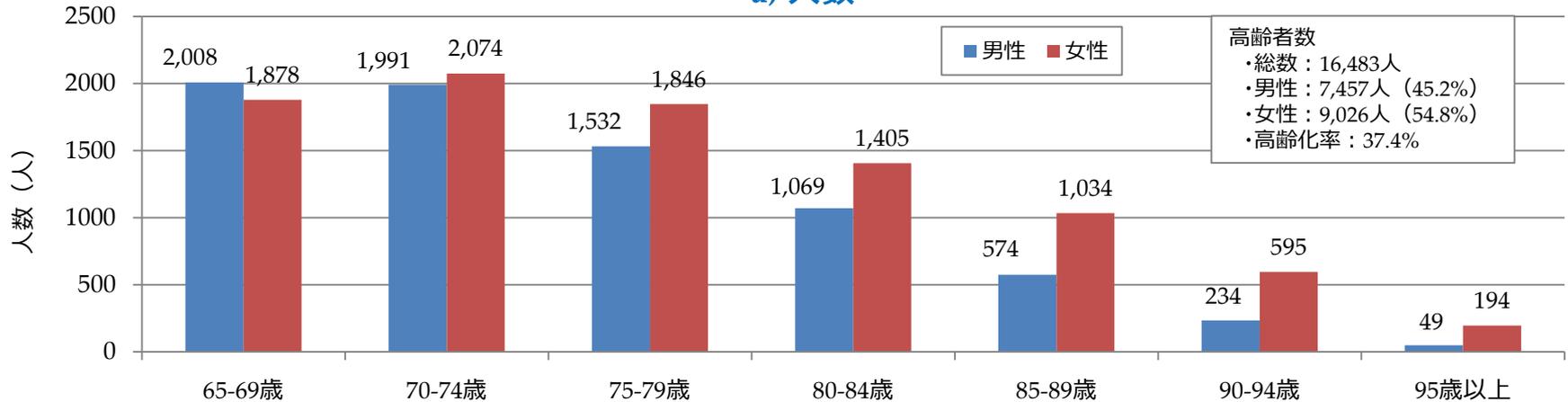


性別年齢階級別に見た高齢者数の分布状況（2019.12時点）

- 2019年12月末時点の高齢者は16,483人で、うち女性は54.8%であった。
- 高齢者のうち、85歳以上の占める割合は、「男性」11.5%、「女性」20.2%であった。

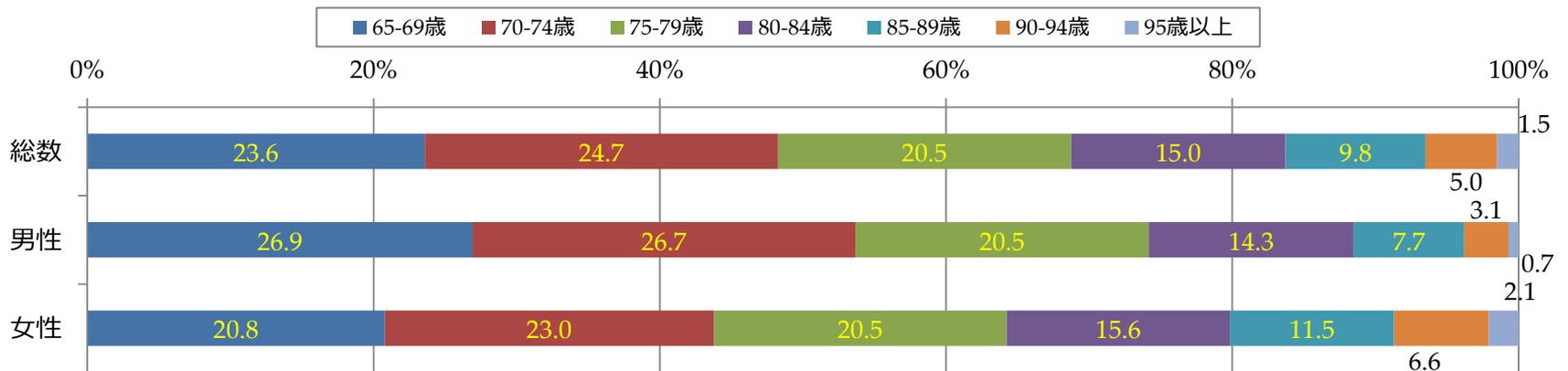
図表2-2. 性別年齢階級別に見た高齢者数

a) 人数



高齢者数
 ・総数：16,483人
 ・男性：7,457人（45.2%）
 ・女性：9,026人（54.8%）
 ・高齢化率：37.4%

b) 構成割合

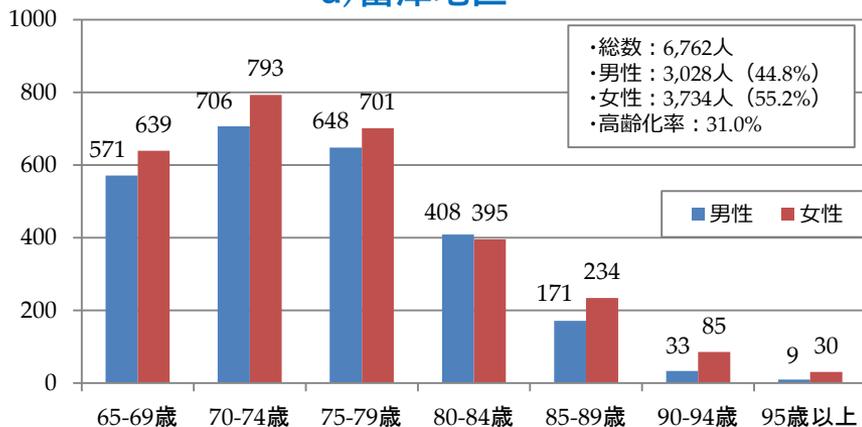


圏域別にみた高齢者数（2019.12時点）

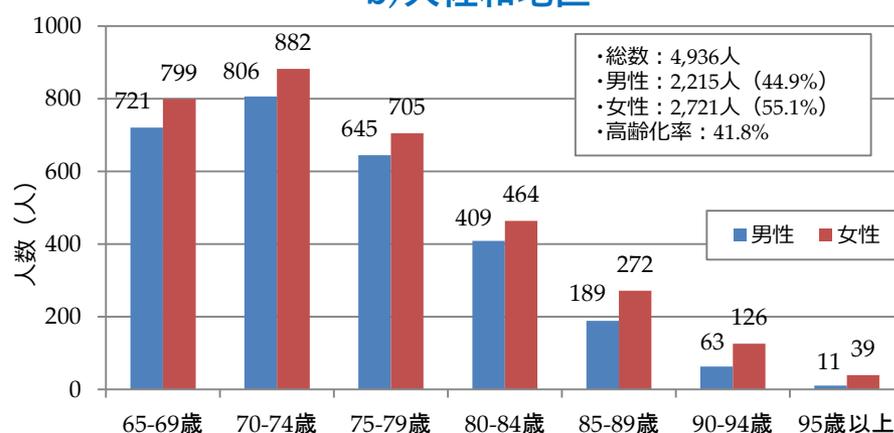
- 2019年12月末時点の高齢者16,483人を圏域別にみると、「富津地区」が6,762人(41.0%)と最も多く、次いで「大佐和地区」4,936人(29.9%)、「天羽地区」4,785人(29.0%)の順であった。

図表2-3. 日常生活圏域別にみた高齢者数

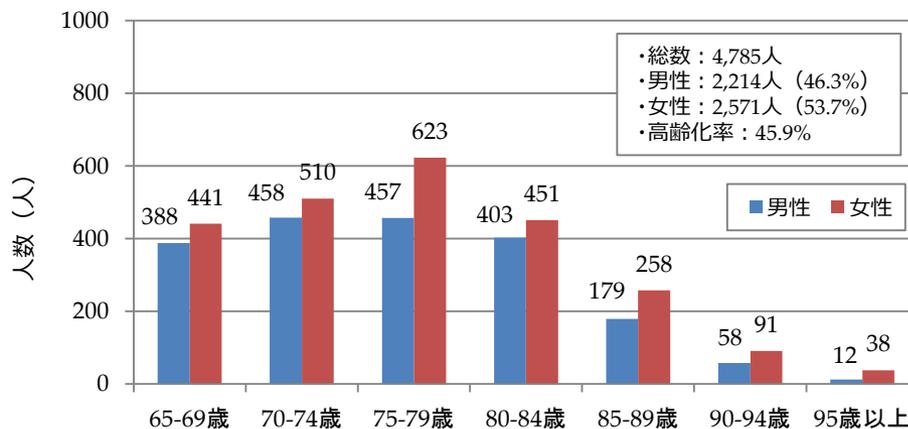
a) 富津地区



b) 大佐和地区



c) 天羽地区



3. 高齢者世帯の状況

富津市の高齢者世帯の状況

図表3-1. 高齢者世帯の変化（2000年と2015年の比較）

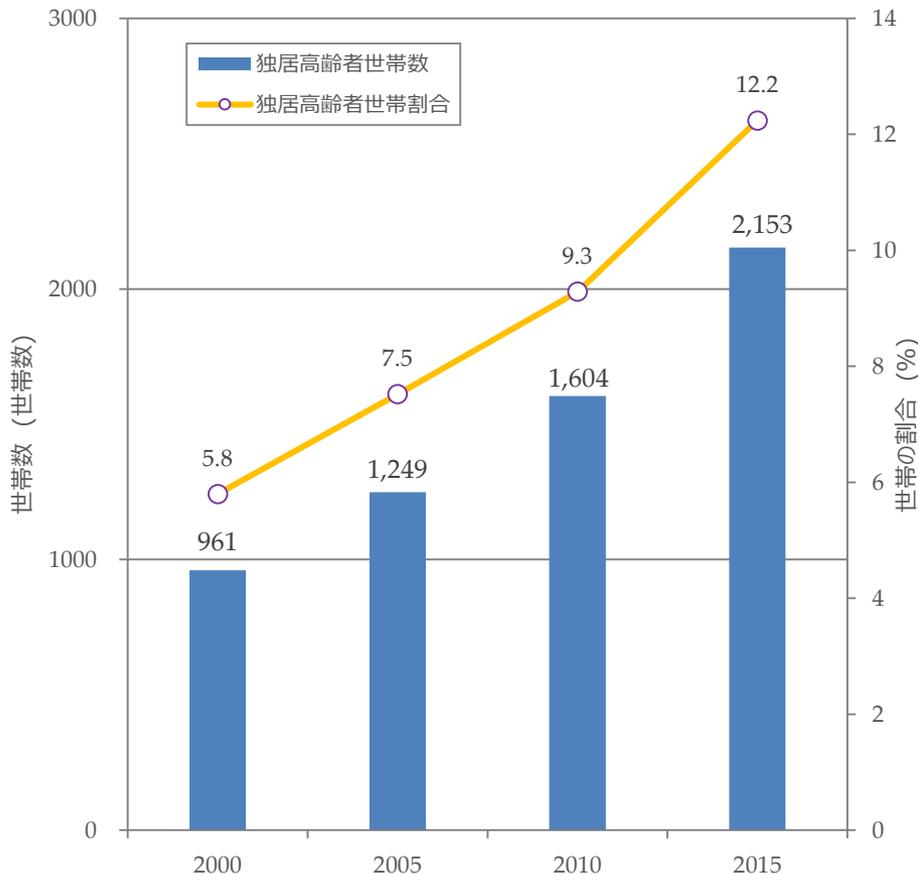
	2000年	2015年	増加量 (倍)
一般世帯数 (世帯)	16,575世帯	17,590世帯	1.06倍
高齢者を含む世帯数 及び一般世帯に占める割合	7,673世帯 (46.3%)	10,012世帯 (56.9%)	1.30倍
独居高齢者世帯数 及び一般世帯に占める割合	961世帯 (5.8%)	2,153世帯 (12.2%)	2.24倍
高齢夫婦世帯数 及び一般世帯に占める割合	994世帯 (4.3%)	2,164世帯 (12.3%)	2.18倍

高齢独居世帯・高齢夫婦世帯数及び割合の推移

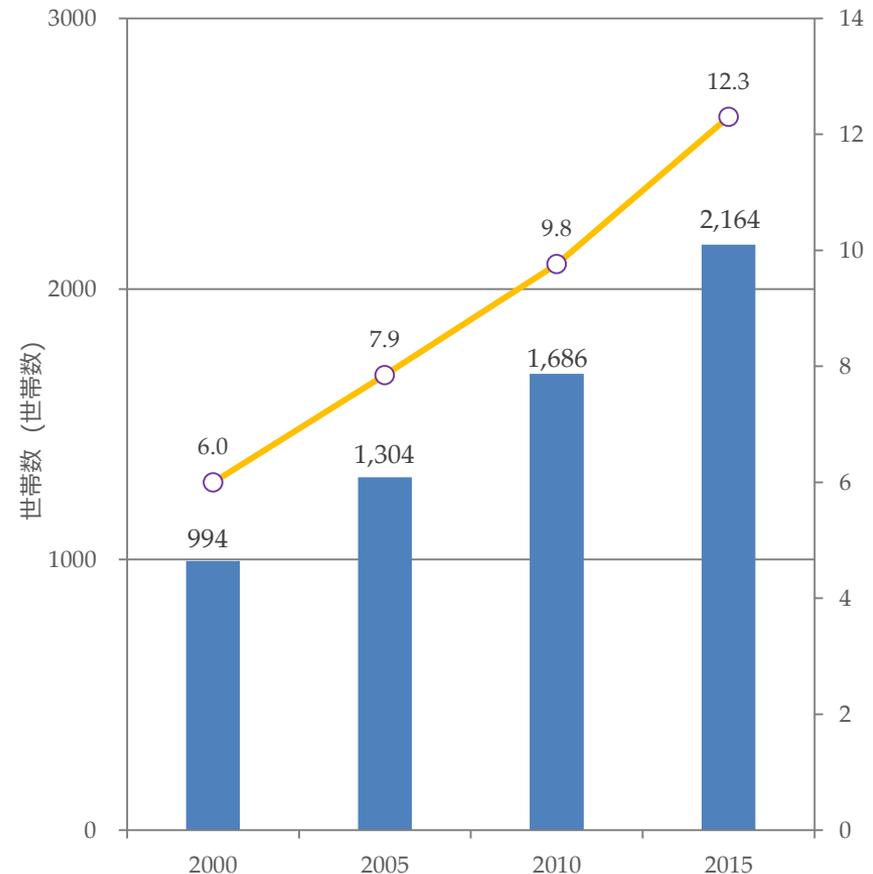
- 2000→2015年間で、一般世帯数は16,575→17,590世帯に増加している(増加率6.1%)。
- 一方、独居高齢者世帯は961→2,153世帯(2.2倍)に、高齢夫婦世帯は994→2,164世帯(2.2倍)に増加し、2015年時点でそれぞれ総世帯の12.2%、12.3%に達している。

図表3-2. 高齢独居世帯・高齢夫婦世帯数及び割合の推移

a) 高齢独居世帯



b) 高齢夫婦世帯



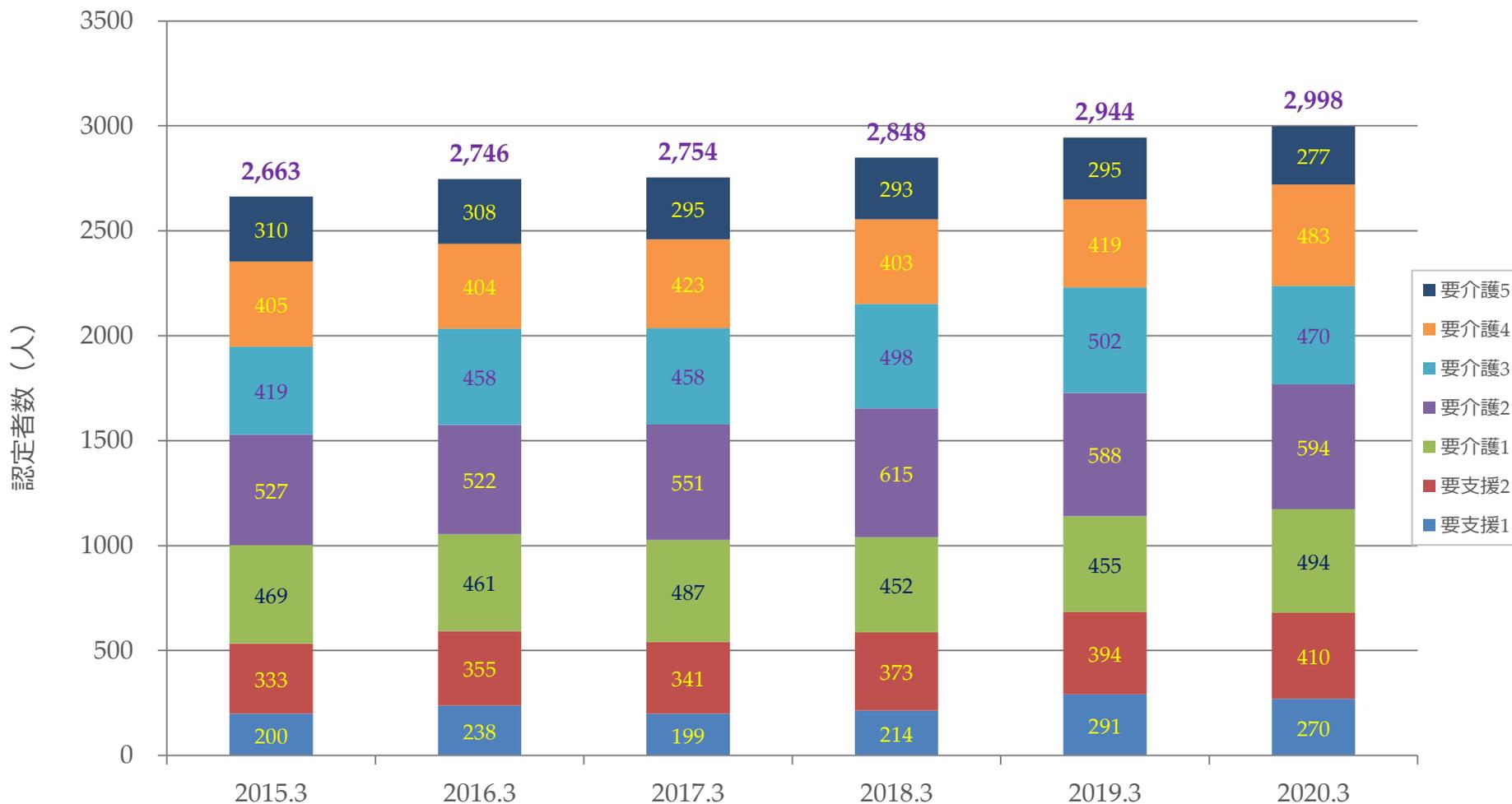
4. 認定者の状況

① 認定者数の推移

要介護度別にみた認定者数の推移（第1号+第2号被保険者）

- 2015→2020年間で、要介護認定者は2,663人から2,998人(1.1倍)に増加している。
- 2020年3月末時点の要支援者は680人で、認定者の22.7%を占めている。

図表4-1-1. 要介護度別にみた認定者数の推移

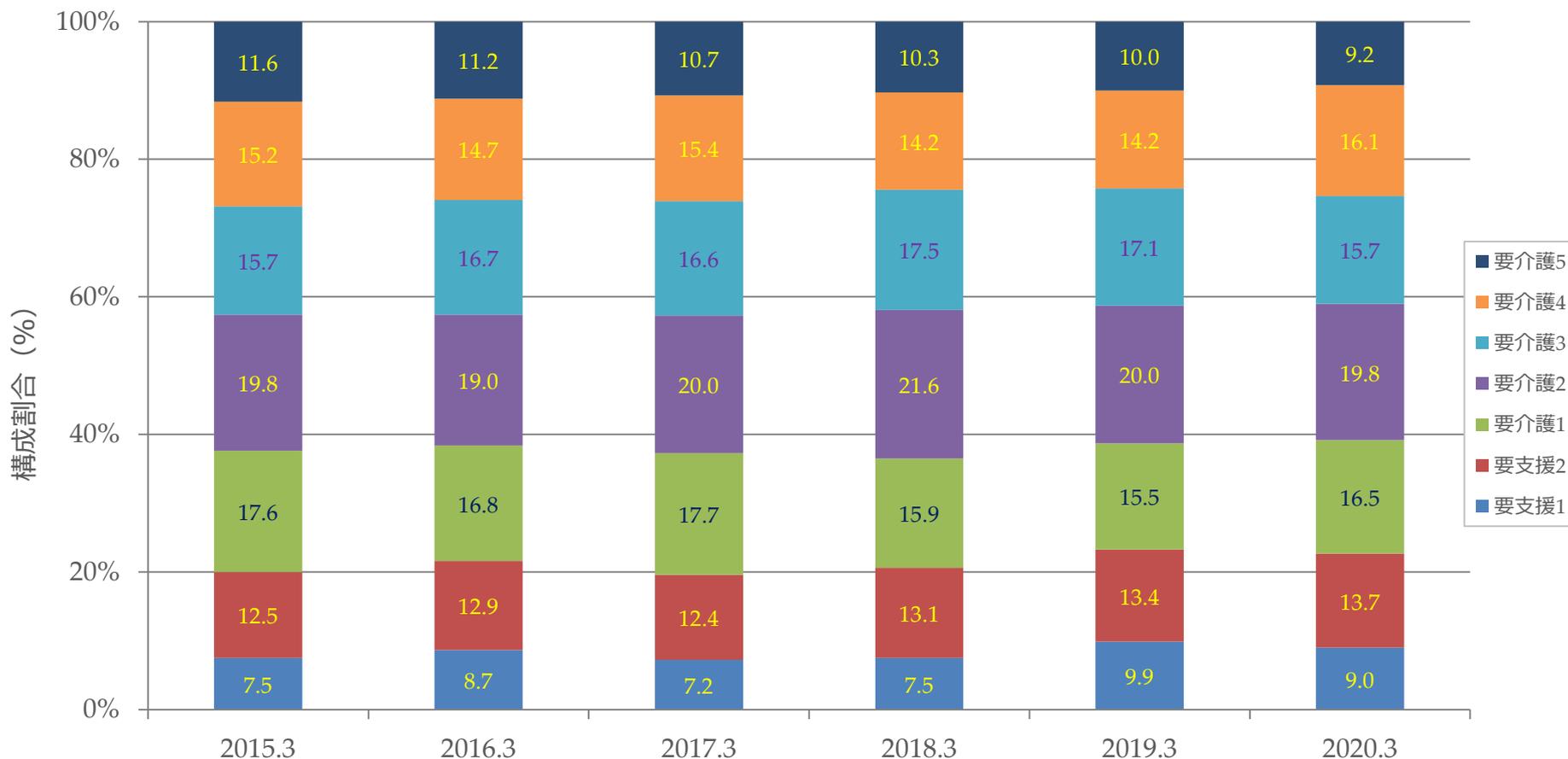


出所) 厚生労働省：地域包括ケア「見える化」システムより作成。各年3月末。認定者には第2号の認定者を含んでいる。

要介護度別にみた認定者数の構成割合の推移（第1号+第2号被保険者）

- 2020年3月の認定者をみると、「要介護2」が19.8%と最も多く、次いで「要介護1」16.5%、「要介護4」16.1%、「要介護3」15.7%、「要支援2」13.7%の順であった。
- 2015年と比較すると、「要支援1」が1.5ポイント、「要支援2」が1.2ポイント、「要介護4」が0.9ポイント増加しているのに対し、「要介護1」は1.1ポイント、「要介護5」は2.4ポイント減少していた。

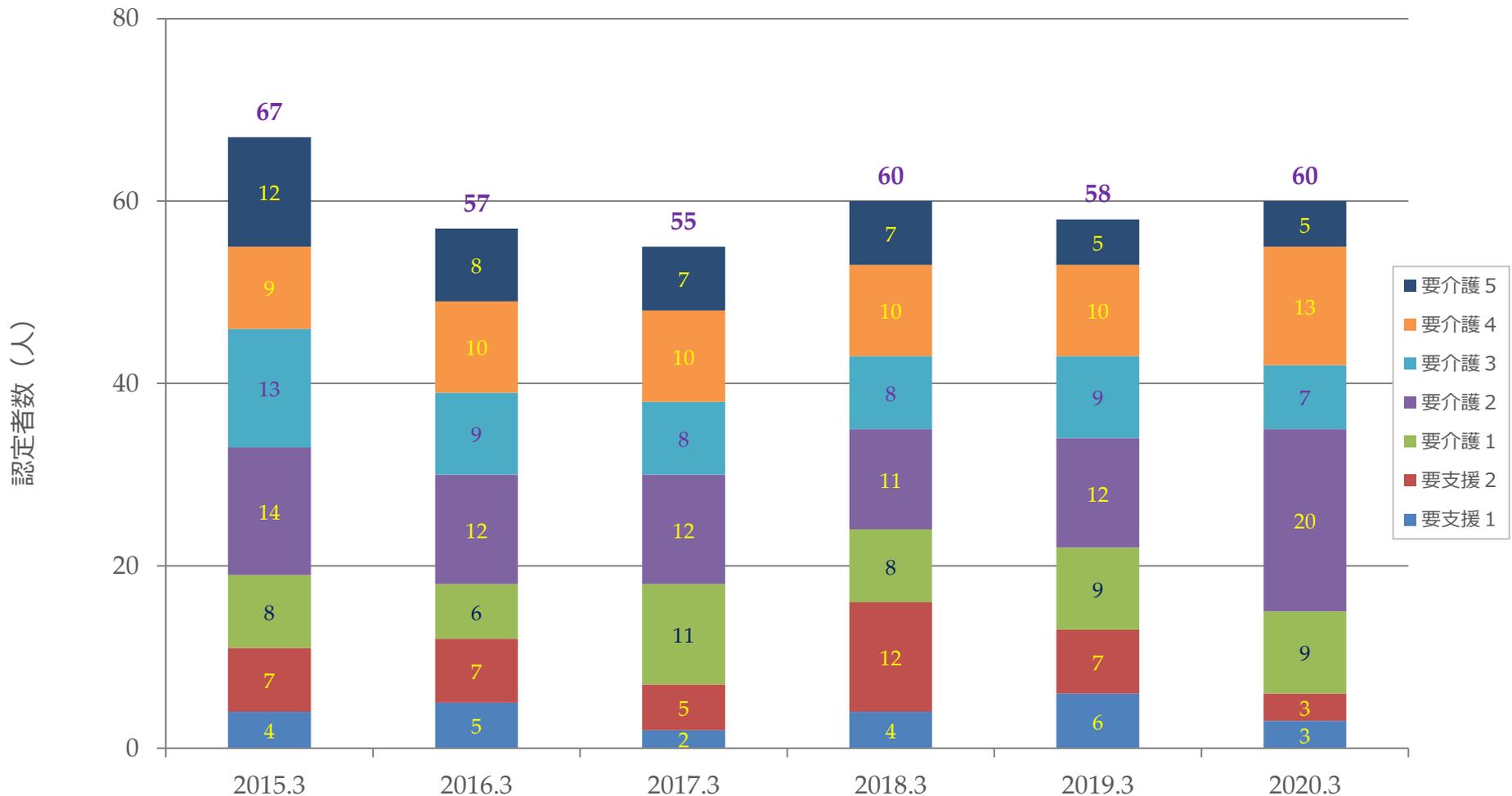
図表4-1-2. 要介護度別にみた認定者数の構成割合の推移



要介護度別に見た認定者数の推移（40～64歳）

- 第2号被保険者の認定者数は2020年3月現在で60人となっている。

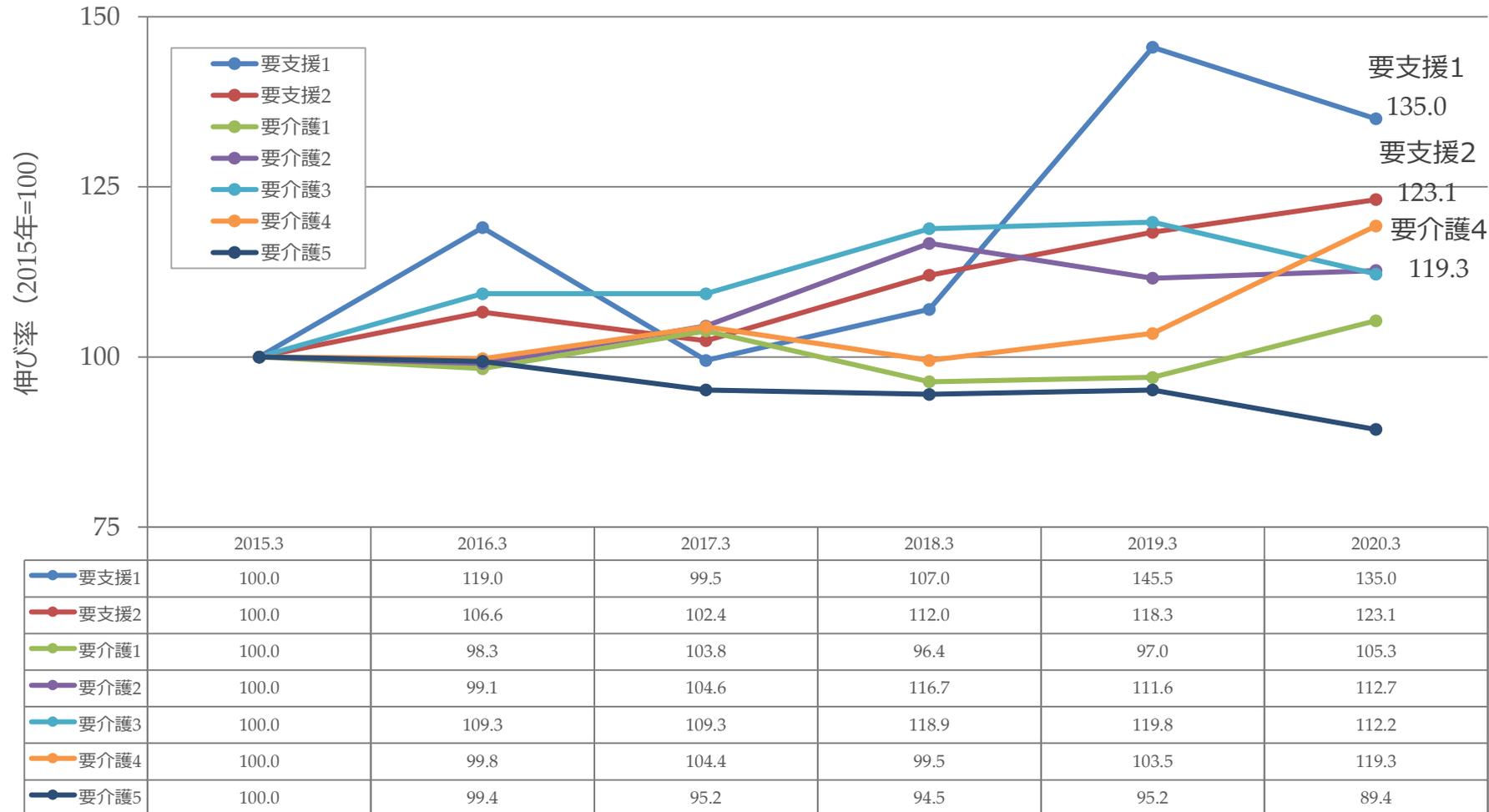
図表4-1-3. 要介護度別に見た40～64歳の認定者数の推移



要介護度別にみた認定者数の伸び率（2015.3を100とした場合）

- 2015→2020年間の認定者数の伸び(2015年3月=100)を要介護度別にみると、「要支援1」が1.35倍と最も高く、次いで「要支援2」1.23倍、「要介護4」1.19倍の順となっている。

図表4-1-4. 要介護度別認定者数の伸び率



出所) 厚生労働省：地域包括ケア「見える化」システムより作成。各年3月末。認定者には第2号の認定者を含んでいる。

②認定率の状況

65歳以上認定率の推移及び全国・県平均との比較（実績ベース）

- 当市の認定率(=65歳以上認定者数/第1号被保険者数)は全国平均を下回る水準で推移しているものの、その差は年々小さくなっている。
- 2020年3月末の65歳以上認定率は17.9%で、全国平均を0.6ポイント下回り、県平均を1.6ポイント上回っている。

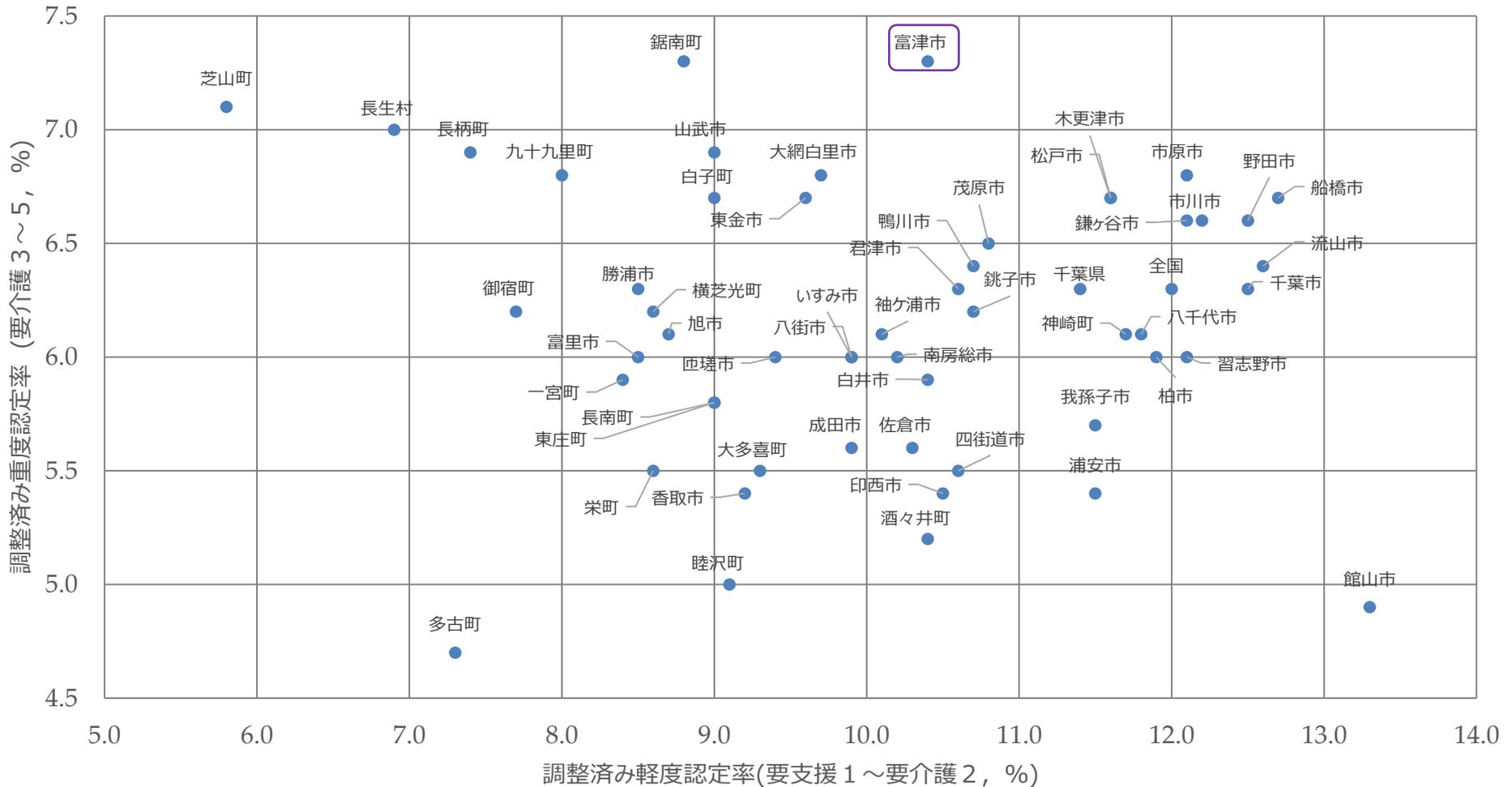
図表4-2-1. 65歳以上認定率の推移（実績ベース）



調整済み軽度・重度認定率の分布状況 (2018時点)

- 調整済み軽度認定率は、「館山市」「船橋市」「流山市」の順で高かった。
- 調整済み重度認定率は、「富津市」「鋸南町」「芝山町」の順で高かった。

図表4-2-2. 65歳以上調整済み軽度・重度認定率の分布状況



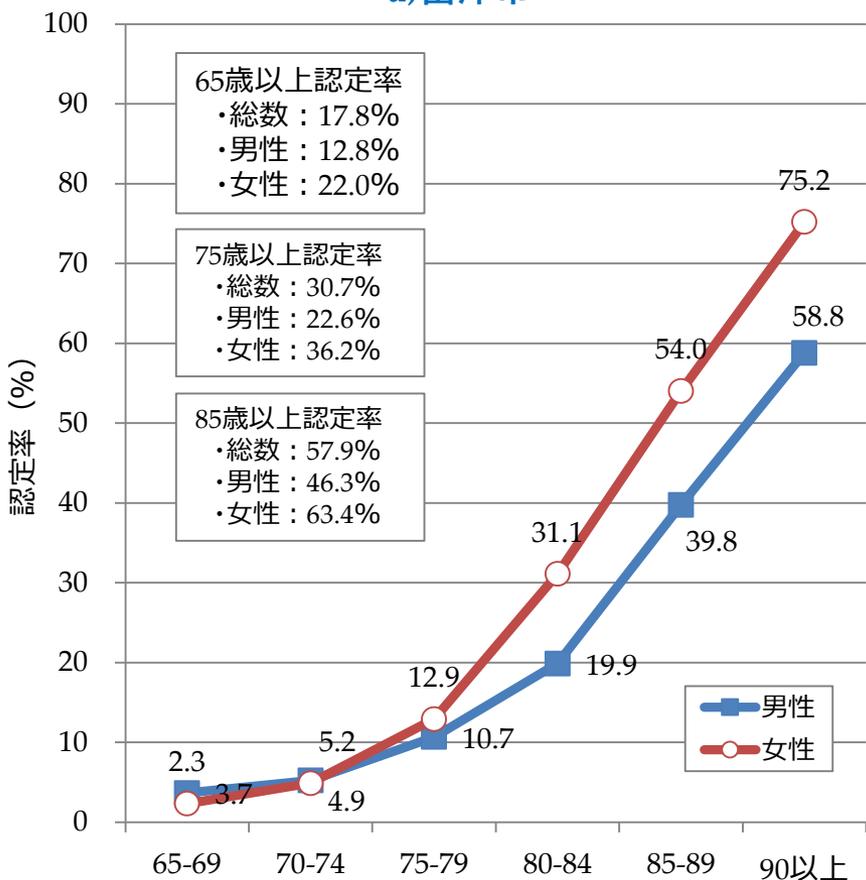
出所) 厚生労働省: 地域包括ケア「見える化」システムより作成。

性別年齢階級別にみた認定率の状況（2020.3末時点）

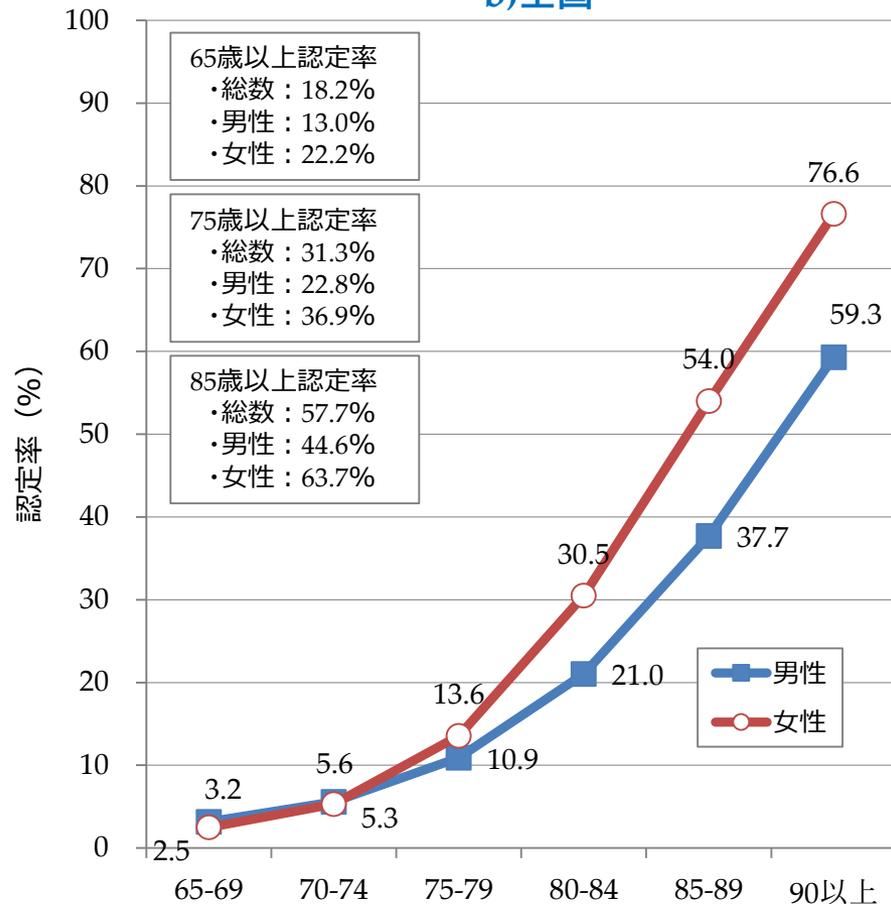
- 2020.3末時点の認定率は、「65歳以上」17.8%、「75歳以上」30.7%、「85歳以上」57.9%であった。
- 性別年齢階級別認定率を全国と比較すると、男性では「65-69歳」「85-89歳」、女性では「80-84歳」のみ全国を上回っていた。

図表4-2-3. 性別年齢階級別にみた認定率

a) 富津市



b) 全国



③ 認定者数の将来推計

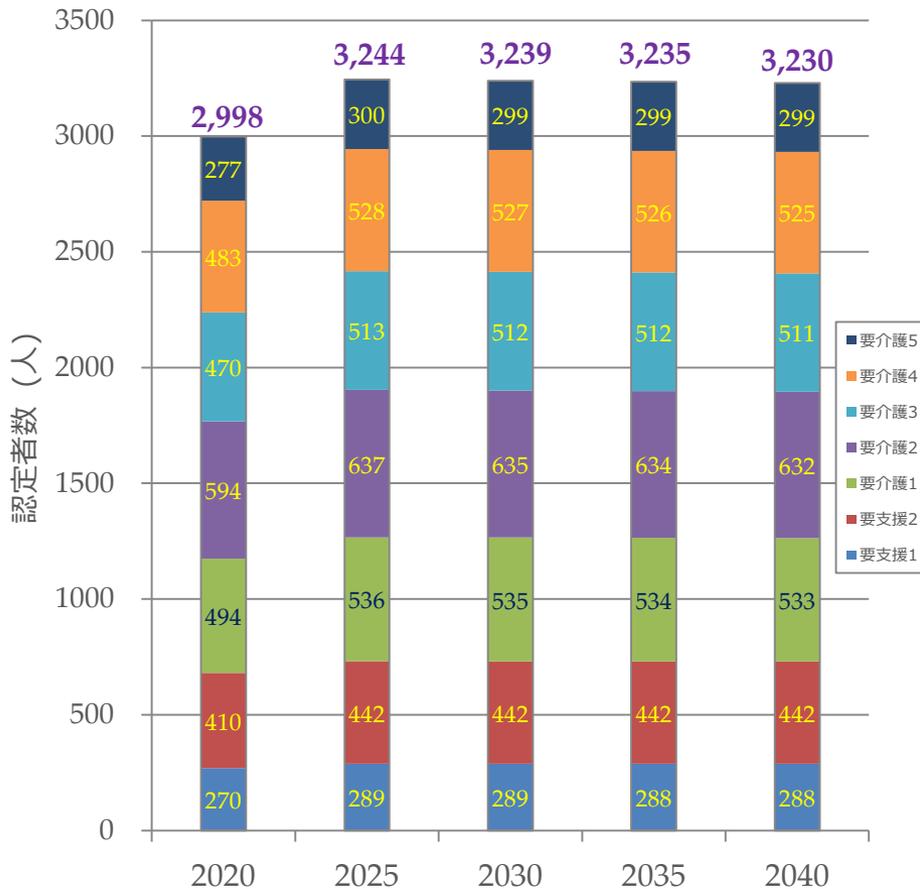
(2020.3時点の性別年齢階級別要介護度別にみた認定者の出現率が
将来的に同じと仮定した場合)

認定者数の将来推計（要介護度別）

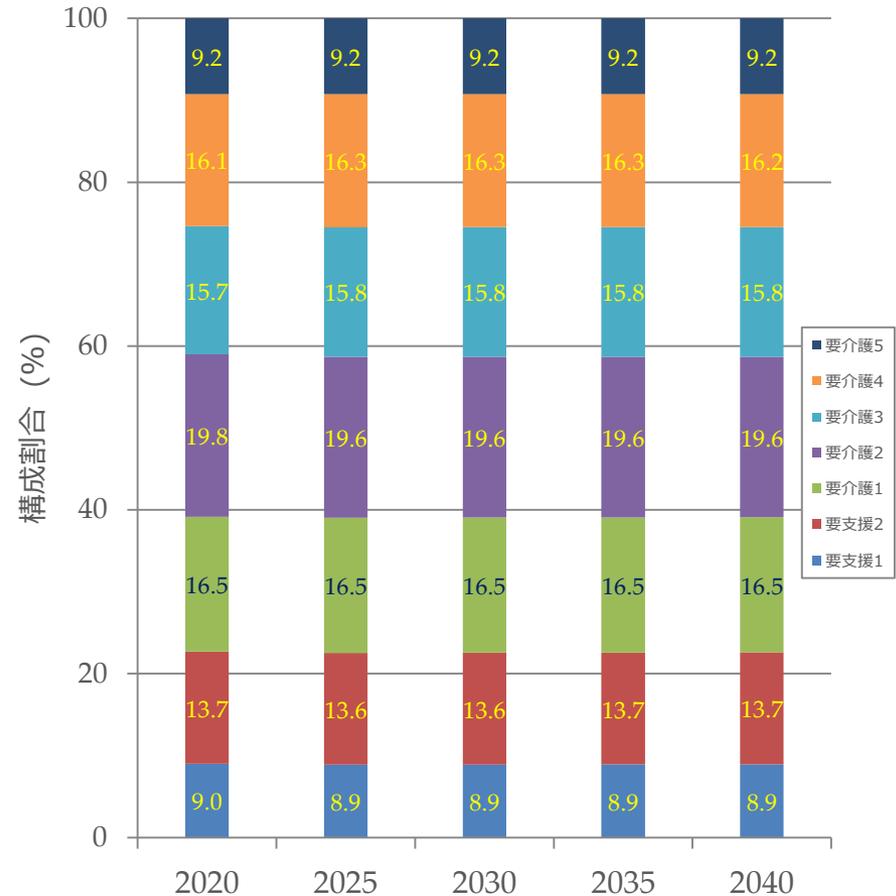
- 2020.3月時点の性別年齢階級別要介護度別認定率で推移したと仮定すると、要介護認定者は、2020年の2,998人から、2040年には3,230人(1.1倍)に増加すると推計された。
- 認定者数のピークは2025年の3,244人と推計された。

図表4-3-1. 要介護度別にみた認定者数及び構成割合の将来推計

a) 認定者数



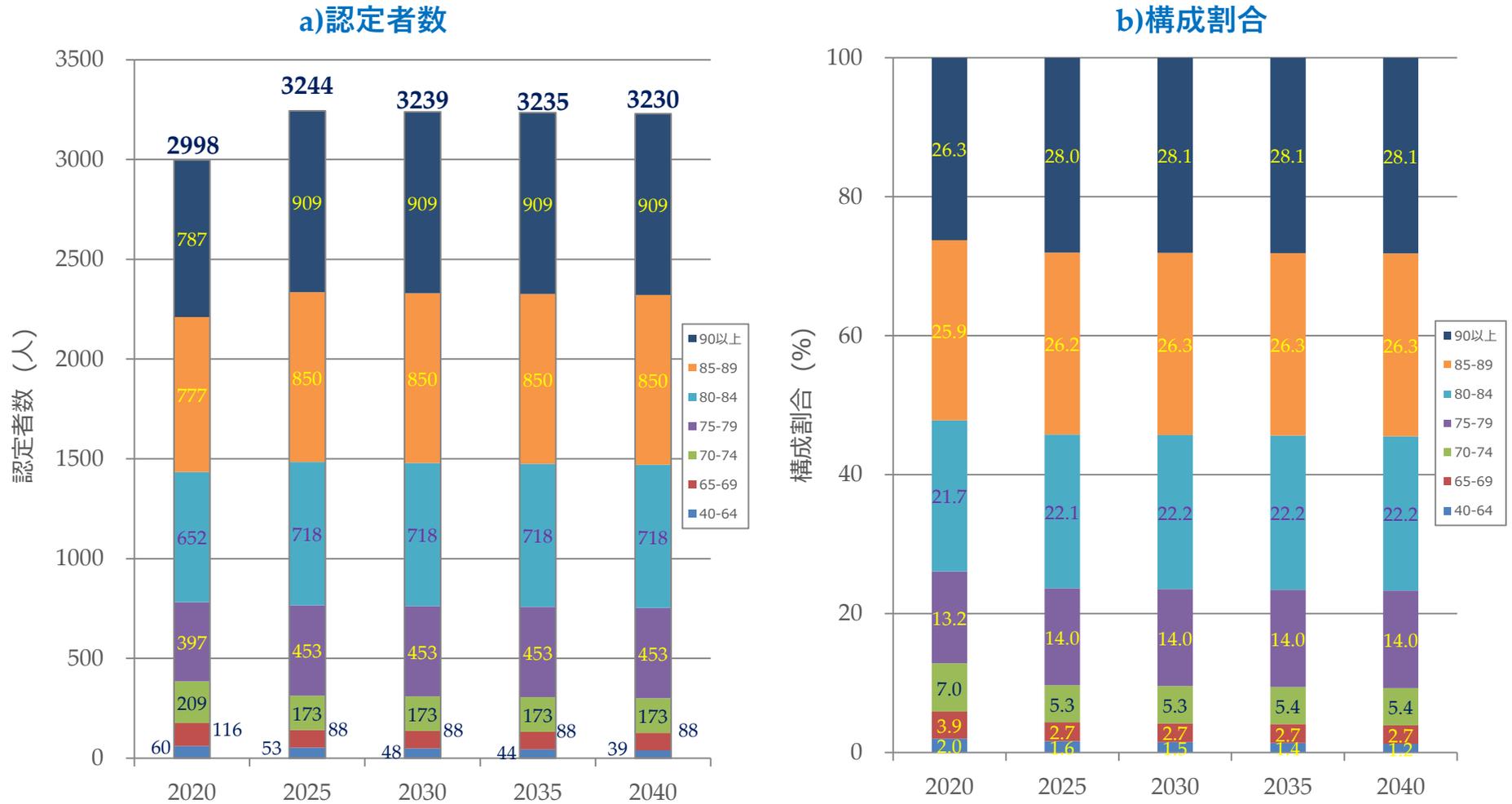
b) 構成割合



認定者数の将来推計（年齢階級別）

- 2020-2040年では「90歳以上」の認定者に占める割合が最も多くなると推計された。
- 2040年では「90歳以上」が認定者の28.1%と推計された。

図表4-3-2. 年齢階級別にみた認定者数及び構成割合の将来推計



④要介護度の変化

3年間の要介護度の変化（2016.12末時点の認定者，n=3,052）

- 2016.12末時点の認定者3,052人の3年後の認定状況を見ると、「死亡」1,374人(45.0%)、「要支援・要介護者」1,371人(44.9%)、「その他(認定申請なし)」239人(7.8%)、「転出」63人(2.1%)の順であった。
- 2時点とも要支援・要介護状態であった1,371人の要介護度の変化をみると、「維持」492人(35.9%)、「改善」193人(14.1%)、「重度化」686人(50.0%)であった。

図表4-4-1. 要介護度の変化（2016.12と2019.12間の推移）

人数 (人)	2019.12末時点												
	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	転出	死亡	その他喪失	その他	合計	
2016.12末時点	要支援1	27	37	19	17	9	12	1	8	37	0	35	202
	要支援2	17	75	35	42	13	17	3	4	71	0	60	337
	要介護1	8	21	67	85	49	35	16	13	156	2	52	504
	要介護2	3	13	30	110	76	45	20	15	230	0	33	575
	要介護3	0	3	7	31	81	72	26	12	254	2	30	518
	要介護4	1	1	0	13	24	75	57	7	300	0	15	493
	要介護5	0	0	0	0	2	19	57	4	326	1	14	423
	合計	56	150	158	298	254	275	180	63	1,374	5	239	3,052

割合 (%)	2019.12末時点												
	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	転出	死亡	その他喪失	その他	合計	
2016.12末時点	要支援1	13.4	18.3	9.4	8.4	4.5	5.9	0.5	4.0	18.3	0.0	17.3	100.0
	要支援2	5.0	22.3	10.4	12.5	3.9	5.0	0.9	1.2	21.1	0.0	17.8	100.0
	要介護1	1.6	4.2	13.3	16.9	9.7	6.9	3.2	2.6	31.0	0.4	10.3	100.0
	要介護2	0.5	2.3	5.2	19.1	13.2	7.8	3.5	2.6	40.0	0.0	5.7	100.0
	要介護3	0.0	0.6	1.4	6.0	15.6	13.9	5.0	2.3	49.0	0.4	5.8	100.0
	要介護4	0.2	0.2	0.0	2.6	4.9	15.2	11.6	1.4	60.9	0.0	3.0	100.0
	要介護5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	4.5	13.5	0.9	77.1	0.2	3.3	100.0
	合計	1.8	4.9	5.2	9.8	8.3	9.0	5.9	2.1	45.0	0.2	7.8	100.0

注) その他とは、2016.12末時点で認定があったもののうち、2019.12末時点で、認定情報がなく、かつ、転出も死亡もその他の喪失にも該当しなかった者のこと。

出所) 富津市要介護認定データ(2019.12)をもとに作成

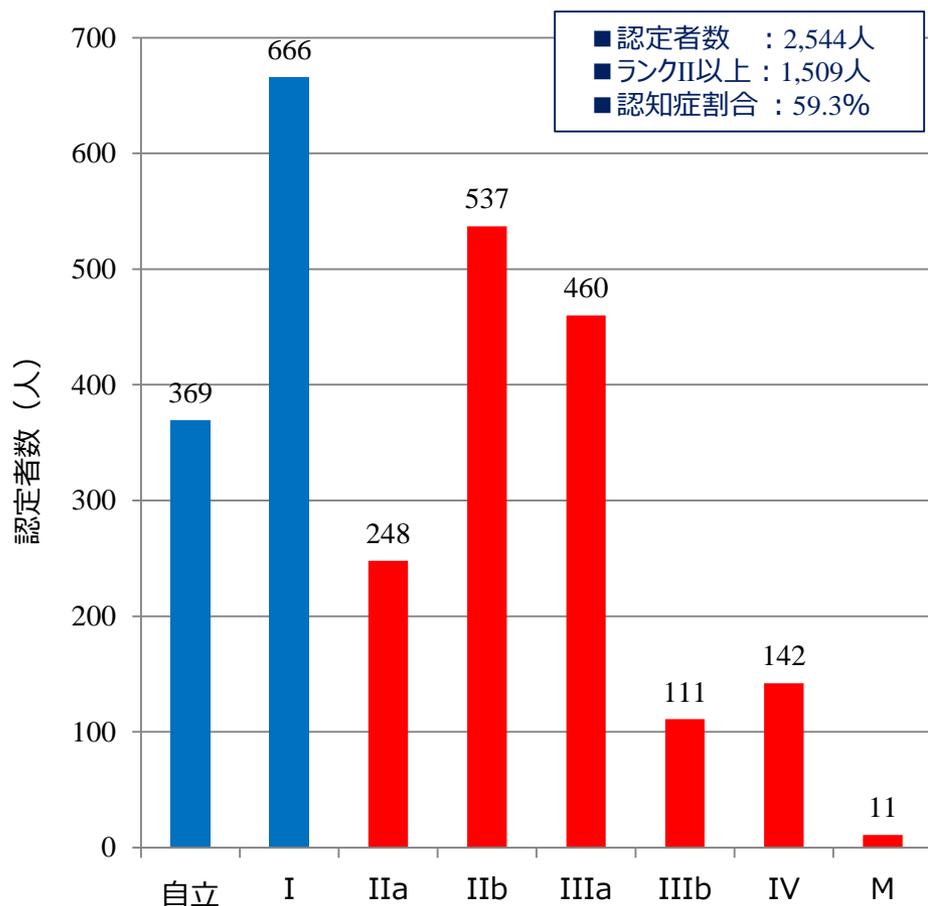
5. 認知症の状況

① 認知症の人数及び割合

認知症自立度別にみた認定者数（2019.12末時点）

- 2019年12月末時点の認定者数は2,544人で、うち「認知症高齢者の日常生活自立度ランクII以上」の者(認知症者)は1,509人(59.3%)であった。

図表5-1-1. 認知症自立度別にみた認定者数



参考1 認知症高齢者の日常生活自立度

ランク	判断基準
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。
II	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。 II a. 家庭外で上記の状態が見られる。(たびたび道に迷うとか、買い物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等) II b. 家庭内でも上記の状態が見られる。(服薬管理ができない、電話の対応や訪問者との対応など一人で留守番ができない等)
III	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが見られ、介護を必要とする。 III a. 日中を中心として上記の状態が見られる。(着替え、食事、排便・排尿が上手にできない・時間がかかる。やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声をあげる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等) III b. 夜間を中心として上記の状態が見られる。(症状、行動はIII aに同じ。)
IV	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。(せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等)

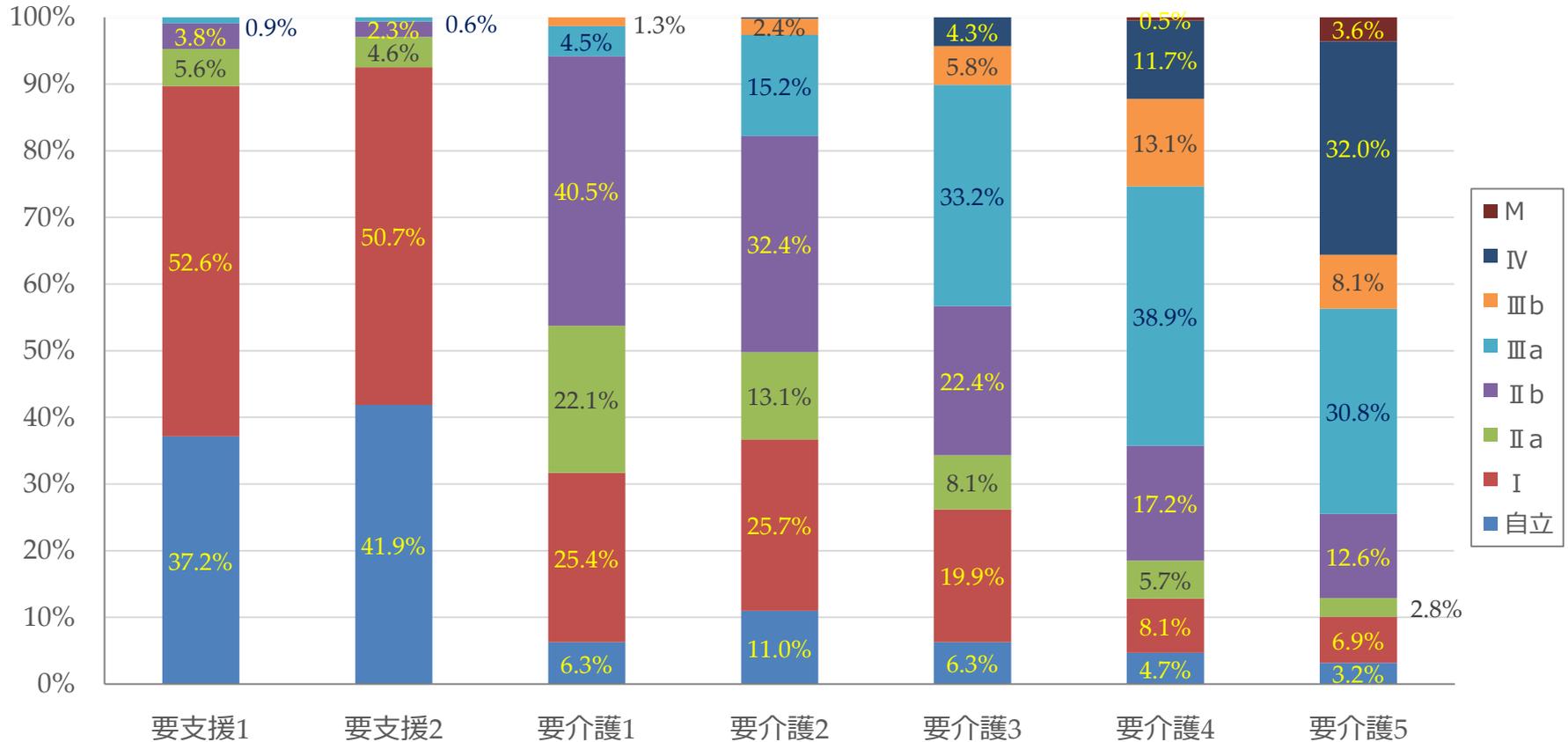
注：本データには第2号被保険者を含む。

出所) 富津市要介護認定データ (2019.12) をもとに作成

要介護度別にみた認知症自立度の分布状況（2019.12末時点）

- 要支援1、要支援2では「ランクI」、要介護1-2では「ランクIIb」、要介護3-4では「ランクIIIa」、要介護5では「ランクIV」が最も多かった。

図表5-1-2. 要介護度別にみた認知症自立度の分布状況



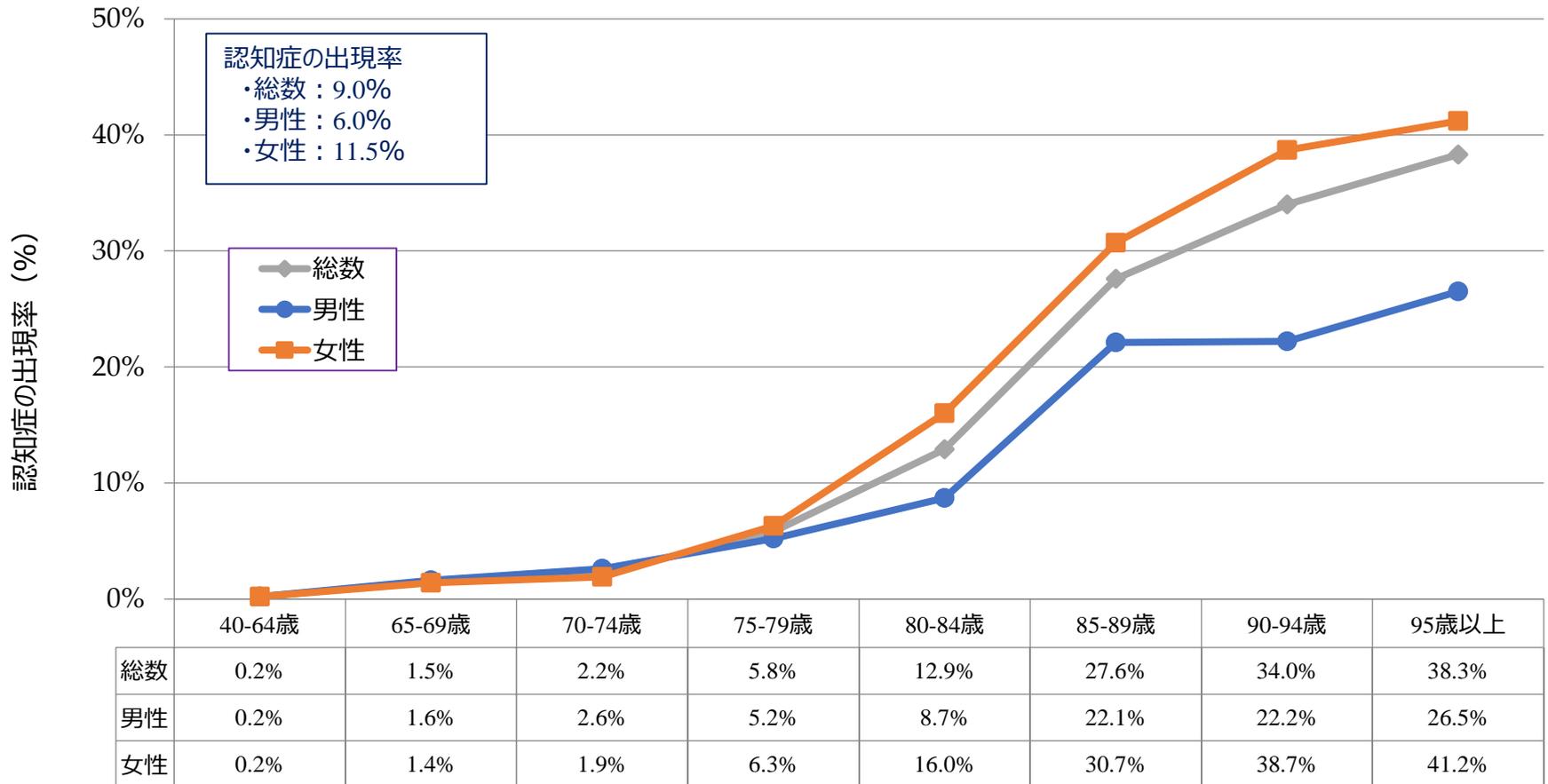
	総数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
ランクII以上の割合 (%)	59.3	10.3	7.5	68.4	63.3	73.8	87.1	89.9

② 認知症の出現率

性別年齢階級別にみた認知症の人の出現率（2019.12末時点）

- 2019年12月末時点の65歳以上の認知症者の出現率は9.0%（男性6.0%、女性11.5%）であった。
- 認知症出現率は85歳以降で急激に上昇していた。なお、その傾向は女性で顕著であった。

図表5-2-1. 性別年齢階級別にみた認知症の出現率



注：認知症の出現率は、各年齢階級別人口のうち、認定を受けて認知症自立度がII以上であったの者の割合を指す

出所）富津市人口データ（2019.12）、要介護認定データ（2019.12）をもとに作成

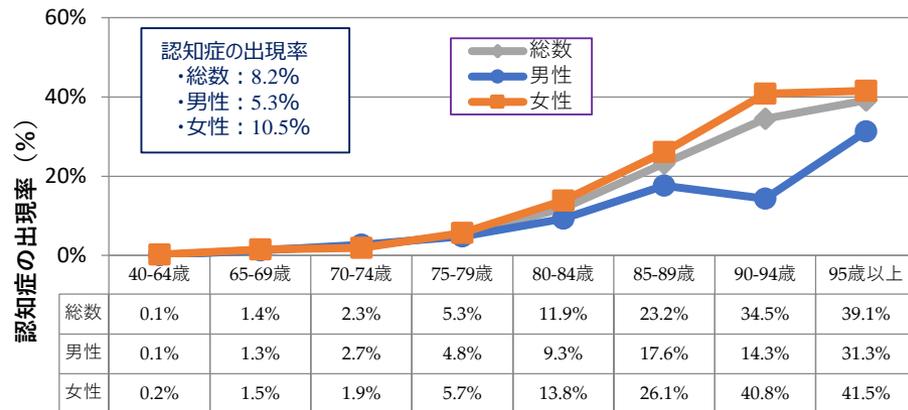
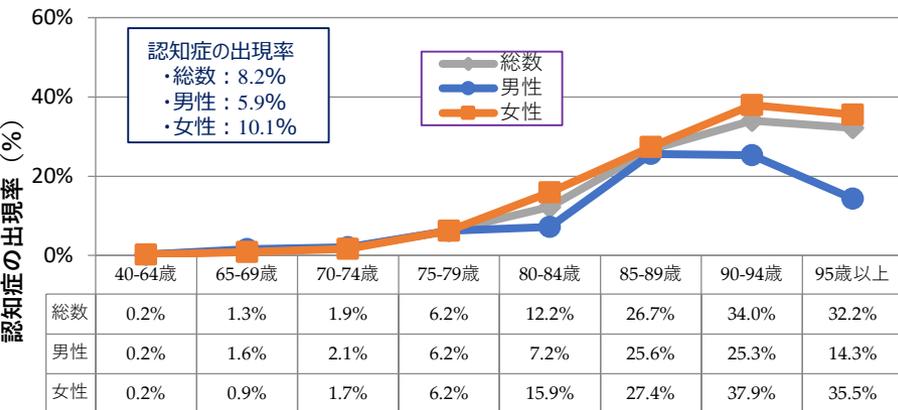
圏域別にみた認知症の人の出現率（2019.12時点）

- 2019年12月末時点の65歳以上の認知症者の出現率(市全体9.0%) を圏域別にみると、「天羽地区」が10.2%と最も高く、次いで「大佐和地区」「富津地区」8.2%の順であった。

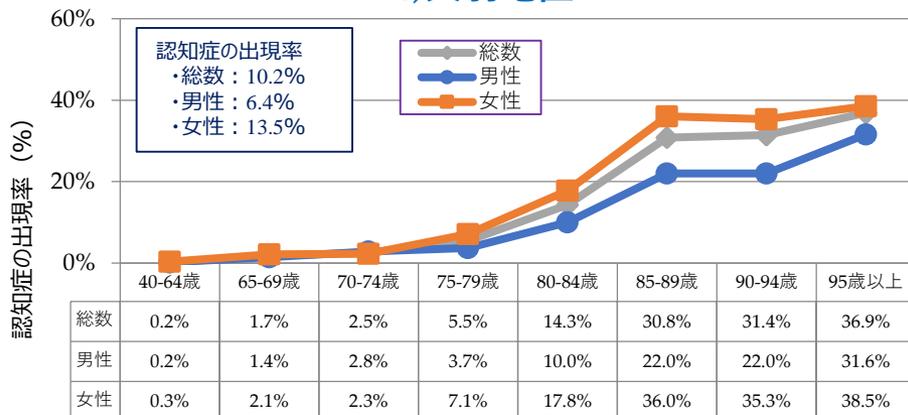
図表5-2-2. 日常生活圏域別にみた認知症の出現率

a) 富津地区

b) 大佐和地区



c) 天羽地区



③ 認知症の人数の将来推計

(2019.12時点の性別年齢階級別要介護度別にみた認知症の出現率が
将来的に同じと仮定した場合)

認知症の人数の将来推計（年齢階級別）

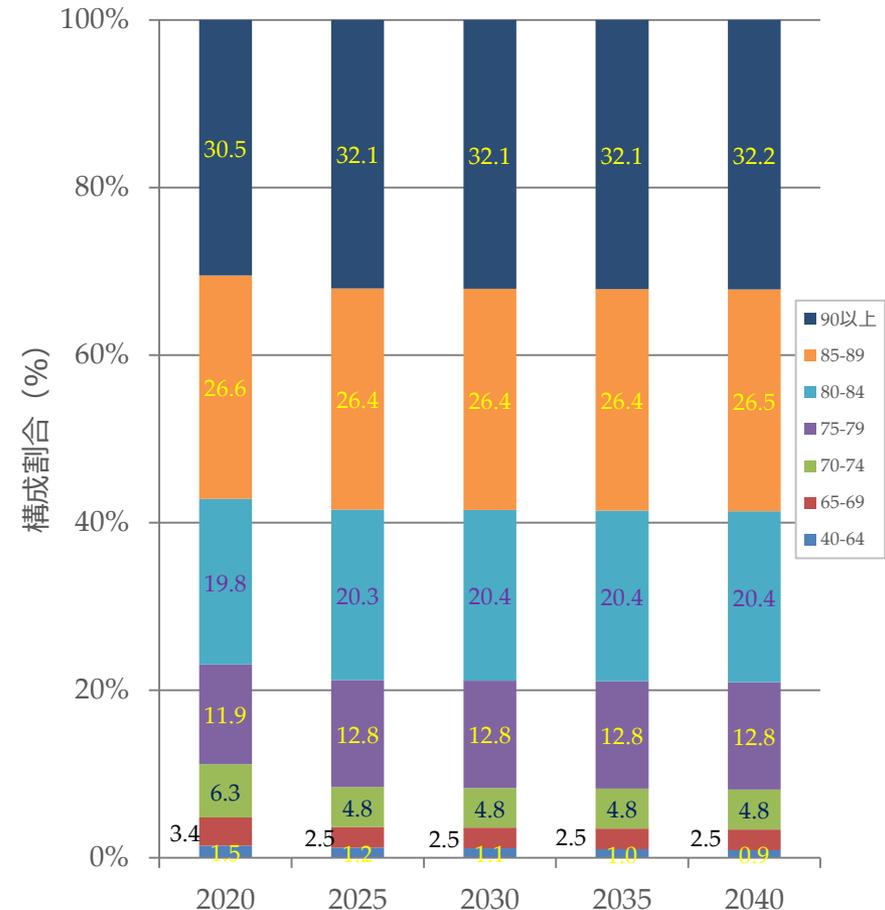
- 2019.12月時点の性別年齢階級別要介護度別認知症の出現率で今後も推移すると仮定した場合、認知症の人数は2020年の1,826人から、2040年には1,983人(1.1倍)に増加すると推計された。
- 2040年の推計認知症の人のうち、「90歳以上」が32.2%を占めると推計された。

図表5-3-1. 年齢階級別に見た認知症患者数及び構成割合の将来推計

a) 認知症の人数



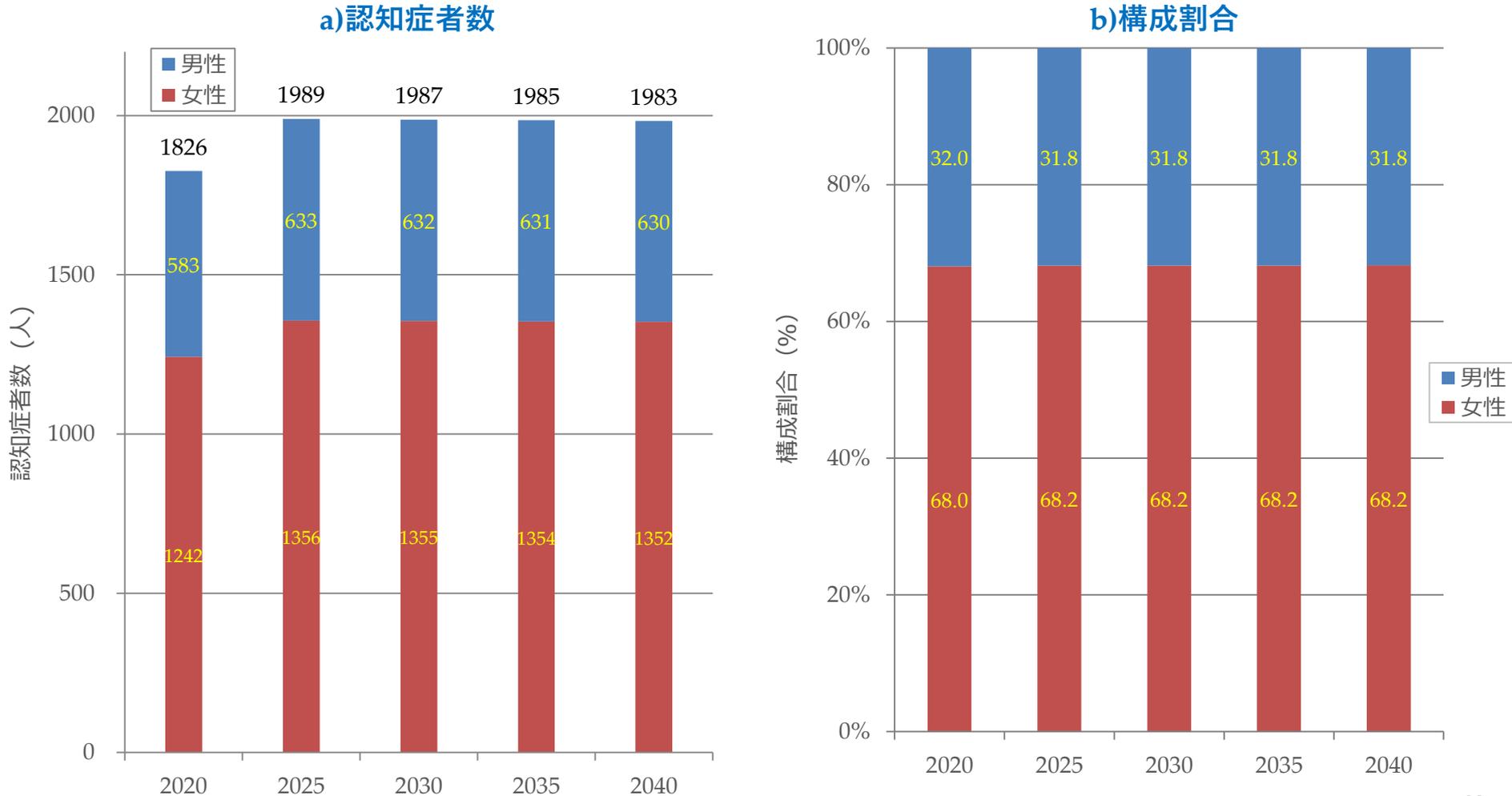
b) 構成割合



認知症の人数の将来推計（性別）

- 2040年の推計認知症の人のうち、「女性」が68.2%を占めると推計された。

図表5-3-2. 性別にみた認知症者数の将来推計



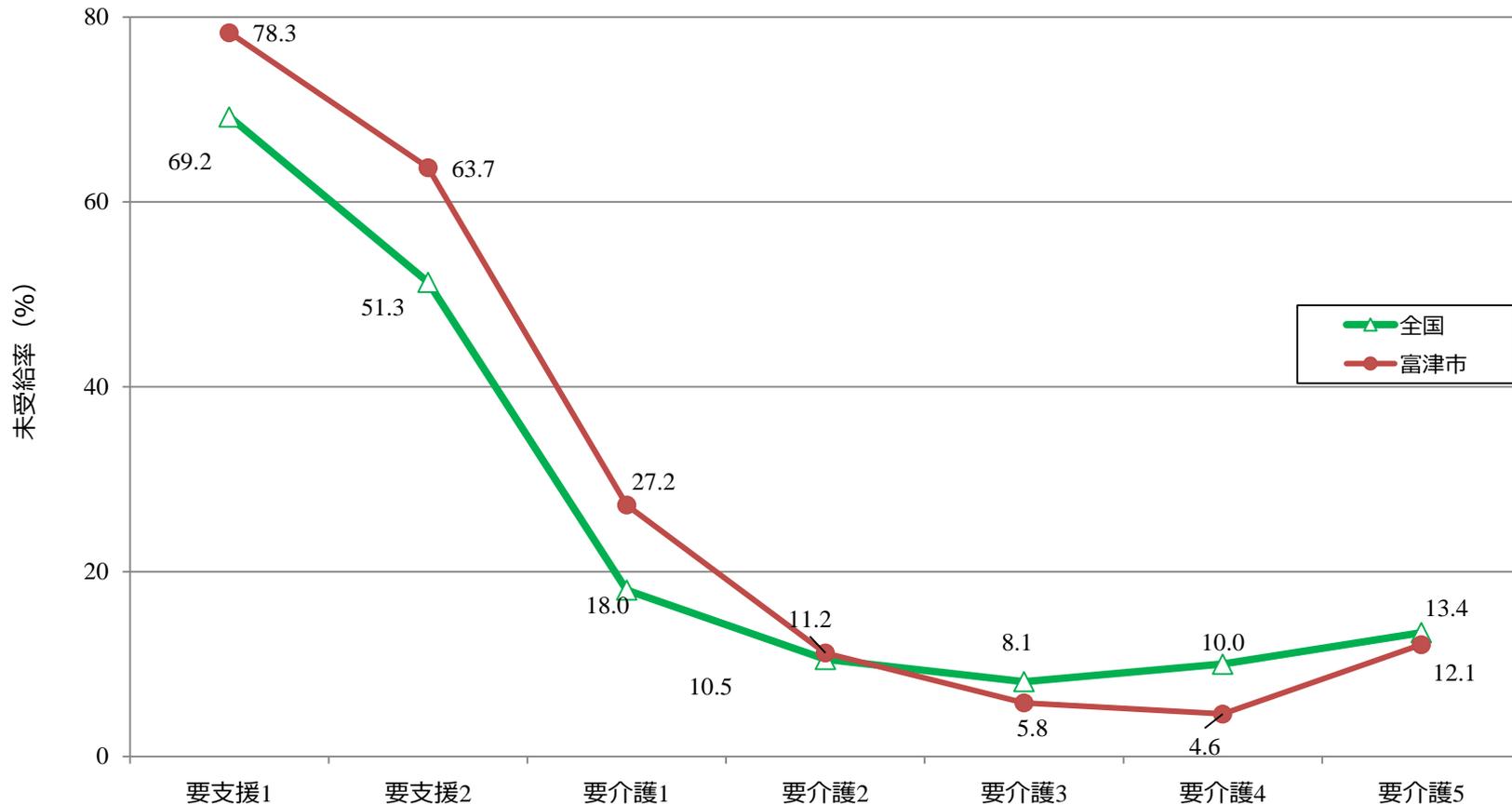
6. サービス受給／給付の状況

① サービス未受給の状況

要介護度別にみた未受給率の比較

- 富津市の介護サービス未受給率は、「要介護3」「要介護4」「要介護5」で全国平均を下回っていた。
- 要介護度別にみた未受給率は、「要支援1」78.3%、「要支援2」63.7%、「要介護1」27.2%の順であった。

図表6-1-1. 要介護度別にみたサービス未受給率の状況

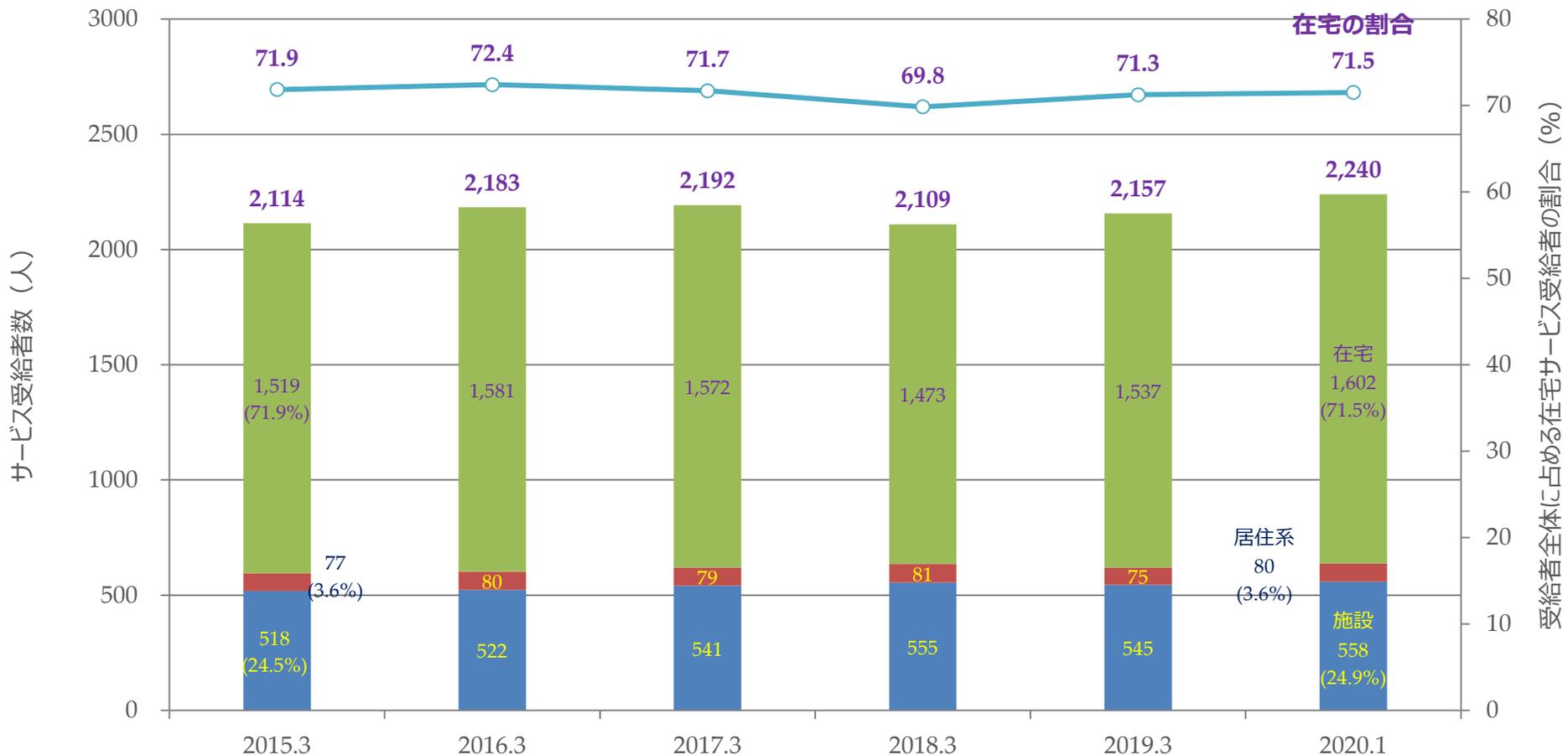


② サービス受給者数

所在地別にみたサービス受給者数の推移（各年3月）

- 2020年1月時点のサービス受給者は2,240人で、これをサービス区分別にみると、「在宅」1,602人(71.5%)、「居住系」80人(3.6%)、「施設」558人(24.9%)であった。
- 2015→2020年間で、「在宅」83人増(5.5%)、「居住系」3人増(3.9%)、「施設」40人増(7.7%)であった。

図表6-2-1. サービス区分別にみたサービス受給者数と在宅が占める割合の推移

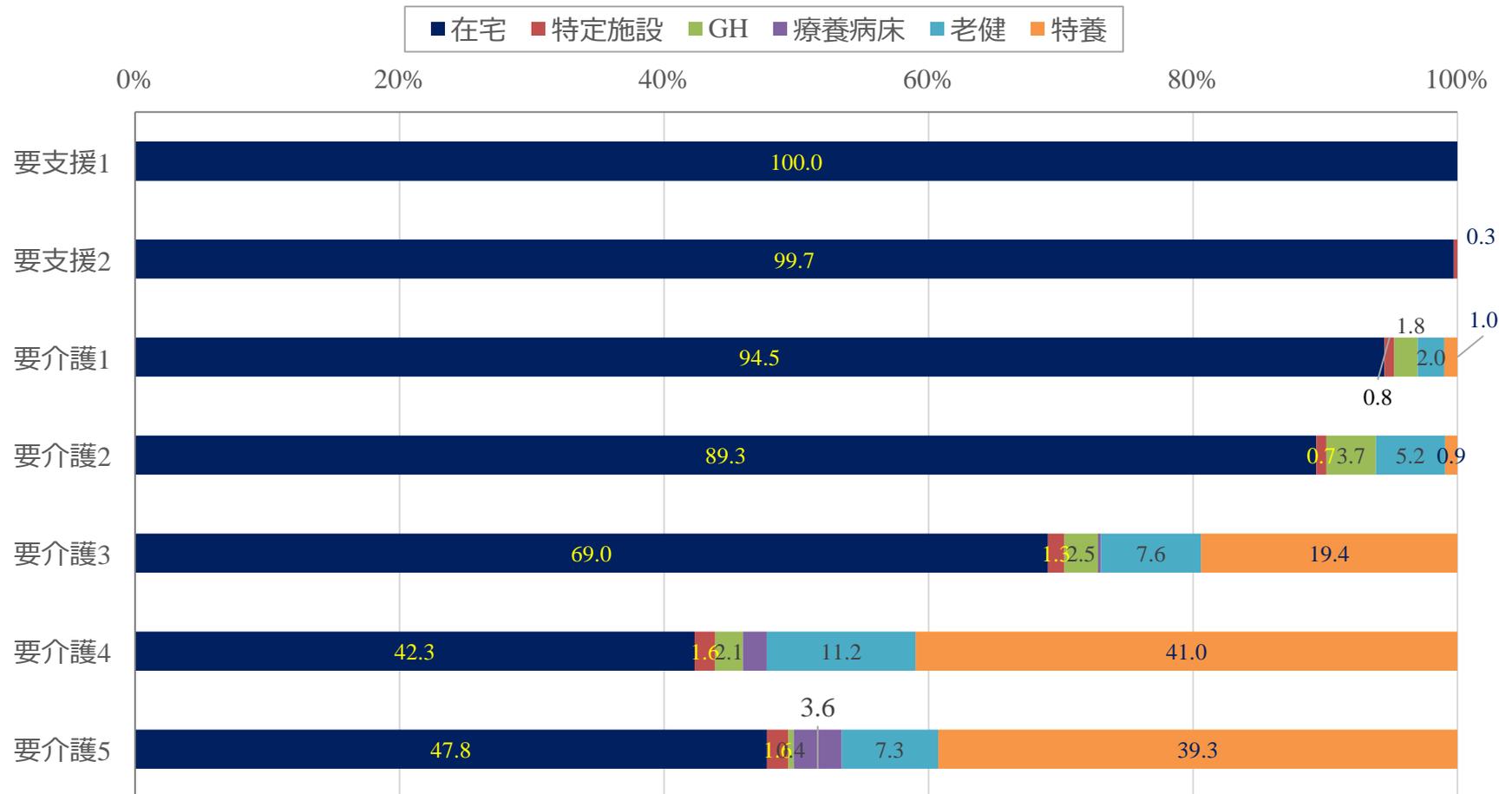


出所) 厚生労働省：地域包括ケア「見える化」システムより作成。各年3月。2020年のみ1月。

要介護度別にみた療養場所別認定者数（2019.12末時点）

- 2019年12月末時点の認定者2,544人の在宅療養率を要介護度別にみると、「要介護1」94.5%、「要介護2」89.3%、「要介護3」69.0%、「要介護4」42.3%、「要介護5」47.8%と、要介護3から急減していた。
- 要介護3からは、特養利用者が急増し、「要介護4」では41.0%、「要介護5」では39.3%を占めていた。

図表6-2-2. 要介護度別にみた療養場所別認定者数の割合

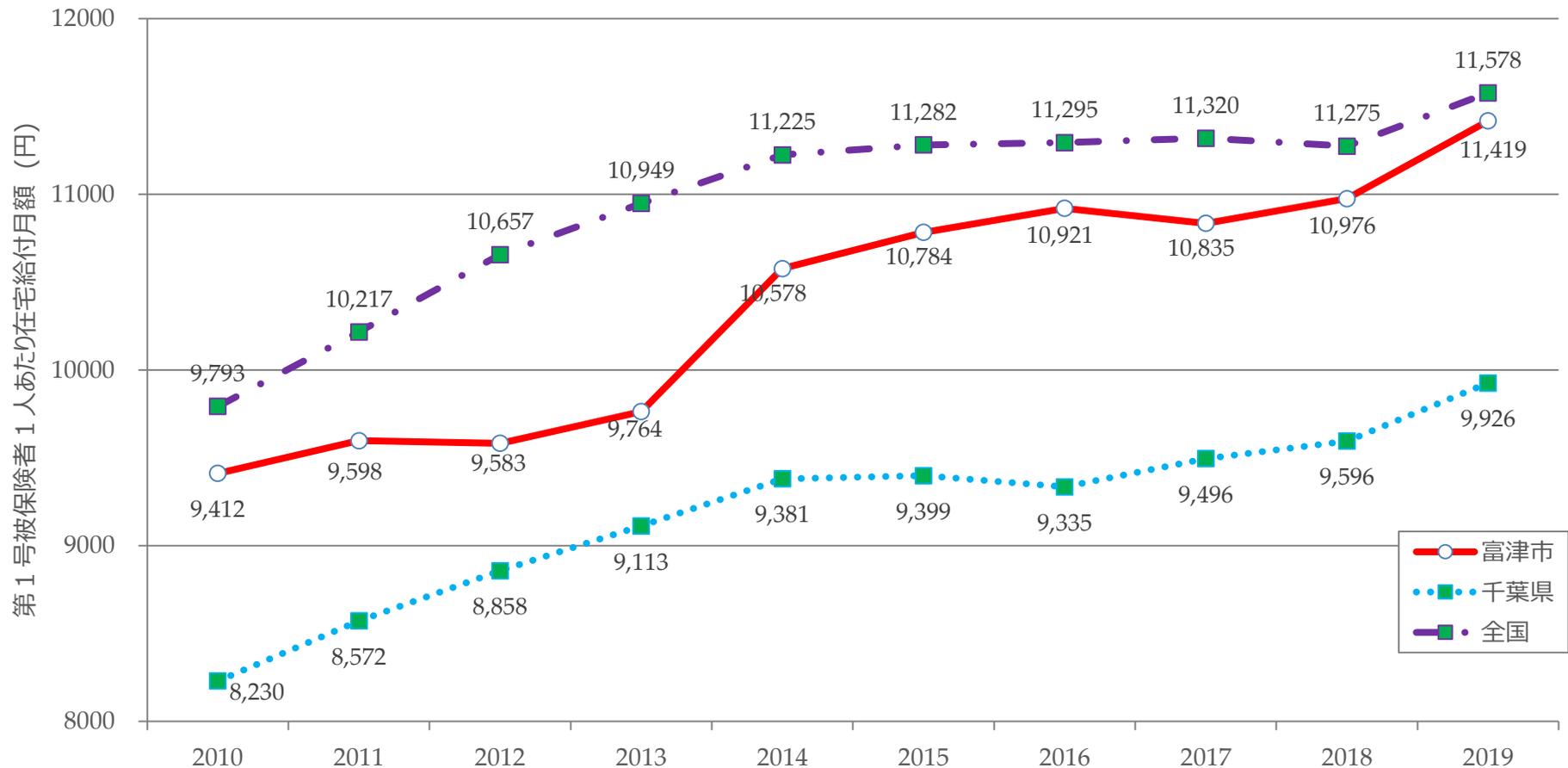


③ 費用

第1号被保険者1人あたり給付月額の推移（在宅サービス）

- 2020年1月時点の第1号被保険者1人あたりの在宅サービス給付月額は、「全国」11,578円、「千葉県」9,926円、「富津市」11,419円であった。
- 富津市の給付月額は2012年以降、年々増加している。

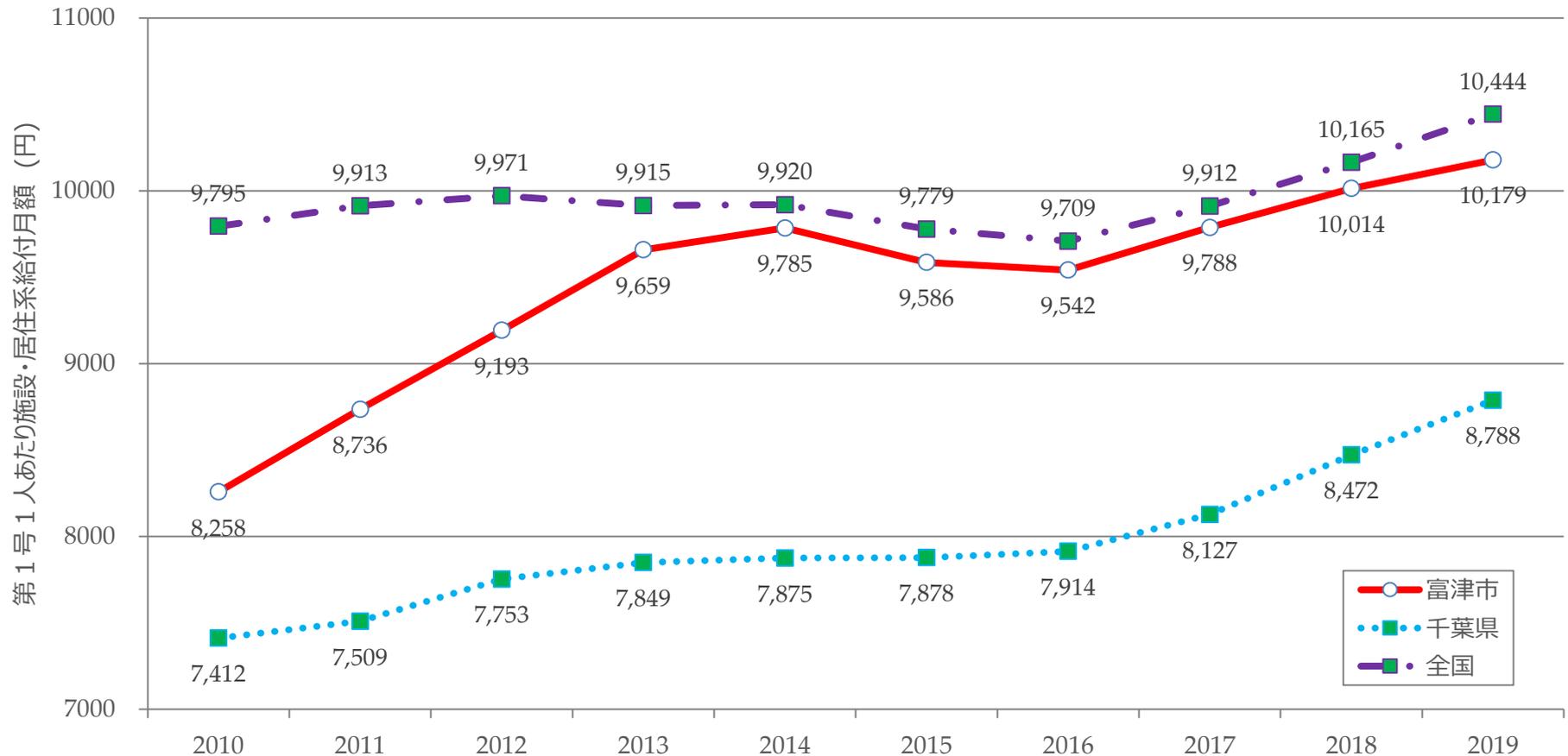
図表6-3-1. 第1号被保険者1人あたり給付月額(在宅サービス)の推移



第1号被保険者1人あたり給付月額の推移（施設・居住系サービス）

- 2020年1月時点の第1号被保険者1人あたりの施設・居住系サービス給付月額は、「全国」10,444円、「千葉県」8,788円、「富津市」10,179円であった。
- 富津市の給付月額は、2014-2016年間で減少傾向であったが、その後増加している。

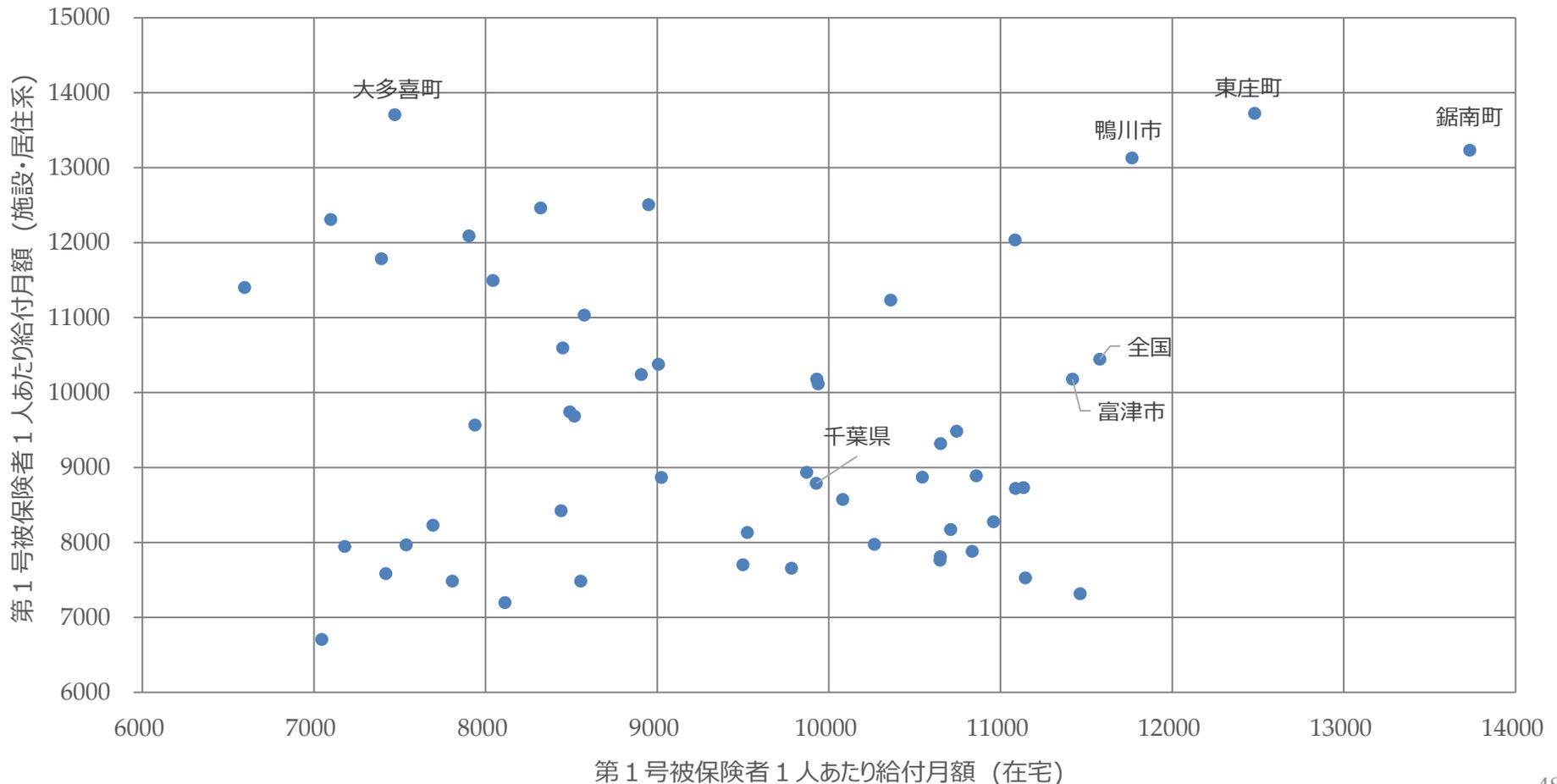
図表6-3-2. 第1号被保険者1人あたり給付月額(施設・居住系サービス)の推移



第1号被保険者1人あたり給付月額（2019年時点）

- 2019年時点の第1号被保険者1人あたり給付月額をみると、在宅サービスでは「鋸南町」「東庄町」「鴨川市」の順、施設・居住系サービスでは「東庄町」「大多喜町」「鋸南町」の順であった。
- 富津市の第1号被保険者1人あたり給付月額は、高い方からみて、「在宅」は11,419円で5番目、「施設・居住系」は10,179円で18番目であった。

図表6-3-3. 第1号被保険者1人あたり在宅・施設・居住系給付月額の分布状況



7. 給付費及び保険料の推移

第7期の給付費等及び65歳以上保険料

- 第7期計画の中間年の2019年の給付費は46億91万円、地域支援事業費を2億5,956万円と推計していた。
- 第7期における65歳以上の介護保険料（基準額）を年額54,000円と設定していた。

図表7-1. 第7期計画における給付費・地域支援事業費の推計

	2018年度	2019年度
介護予防サービス費 計	51,300,860	56,783,494
介護予防サービス	32,914,093	37,996,764
地域密着型介護予防サービス	3,905,657	3,282,466
介護サービス費 計	4,053,406,595	4,194,146,830
居宅介護サービス	1,577,958,671	1,656,308,800
地域密着型介護サービス	659,650,840	696,717,289
施設介護サービス	1,568,874,700	1,589,340,589
給付費 合計	4,431,305,934	4,600,915,882